

地域の福祉活動に関する市民意識調査
報 告 書

令和 4 年 12 月

札 幌 市

目次

第1章 調査の概要	4
1 調査の目的	4
2 調査の内容	4
3 調査の概要	4
4 回収状況	4
5 本調査結果利用上の注意事項	4
第2章 調査結果報告	5
I あなた自身のことについて	5
性別	5
稼働状況	7
家族形態	8
居住年数	9
居住形態	10
通信手段	11
II 地域活動について	12
地域活動の参加経験	12
参加経験のある地域活動実施団体	13
地域活動団体への参加内容	14
地域活動への参加のきっかけ	16
地域活動への現在の参加状況	17
地域活動継続（再開）意思の有無	18
継続（再度参加）の意志の理由	19
非継続（非再度参加）の意志の理由	20
現在地域活動に参加していない理由	21
地域活動・ボランティアに未参加の方がもし参加するなら可能な回数	22

Ⅲ ご近所との付き合いについて.....	23
近所付き合いの程度	23
日常生活での相談先	25
コロナ禍の影響.....	27
Ⅳ 住民による支え合い活動について.....	28
近所に手助けが必要な方がいるかの認知度	28
近所に手助けが必要な方がいるかを知ったきっかけ.....	29
近所の手助けが必要な方へできること	30
近所の方に手助けしてほしいこと	31
住みよい地域づくりのさまたげと感ずること	32
Ⅴ 札幌市の地域福祉施策について	33
福祉のまち推進センターの認知度.....	33
福祉のまち推進センターを知った手段	34
福祉のまち推進センターとの関わり	35
福祉のまち推進センターへの参加意向	36
福祉のまち推進センターによる手助けの享受	37
福祉のまち推進センターにおける支え合い活動への参加促進策	38
地域での手助けや支え合いの中心となる担い手.....	40
Ⅵ 地域活動と住民の支え合いに関する意見（自由記入）	42
地域活動の活性化について	43
教育啓発活動について.....	43
地域活動と住民の支え合いへの参加について	44
費用負担について.....	44
拠点づくりについて	45
情報の発信について	46
近隣との関係性について	46
福まちの仕組みづくり	47
その他	47
個人のプライバシーについて	47
資料.....	49

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本市に居住している方々の地域活動、近隣との交流状況及び「福祉のまち推進センター」の事業を含めた地域の支え合い活動やそれらの活動に対する意識を把握することを目的とする。

2 調査の内容

- ① あなた自身のことについて
- ② 地域活動について
- ③ ご近所との付き合いについて
- ④ 住民による支え合い活動について
- ⑤ 札幌市の地域福祉施策について

3 調査の概要

① 調査対象

- 令和4年9月1日時点で札幌市に住民登録がある市民の中から、16歳以上の方3,000人を無作為抽出

② 調査方法

- 郵送法による無記名アンケート調査

③ 調査期間（調査票発送～投函期限）

- 令和4年9月30日（金）～令和4年10月16日（日）

4 回収状況

発送数	回答総数	有効回答	無効回答	有効回答率
3,000 件	1,080 件	1,079 件	1 件	35.9%

5 本調査結果利用上の注意事項

- (1) Nとは、比率算出の基礎となるサンプル数のことである。
- (2) 各回答の比率は、回答者数を分母とした百分率であり、小数第2位もしくは少数第3位を四捨五入している。
- (3) 1人の対象者につき2つ以上の複数回答を認めた質問の場合は、回答者数を分母としているため、個々の比率の合計は、100.0%を超えることがある。

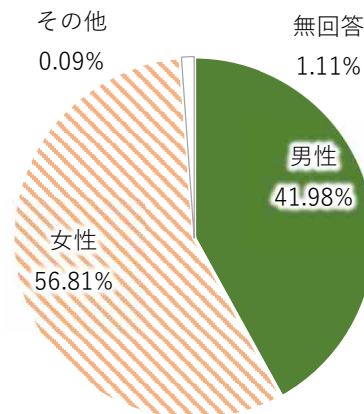
第2章 調査結果報告

I あなた自身のことについて

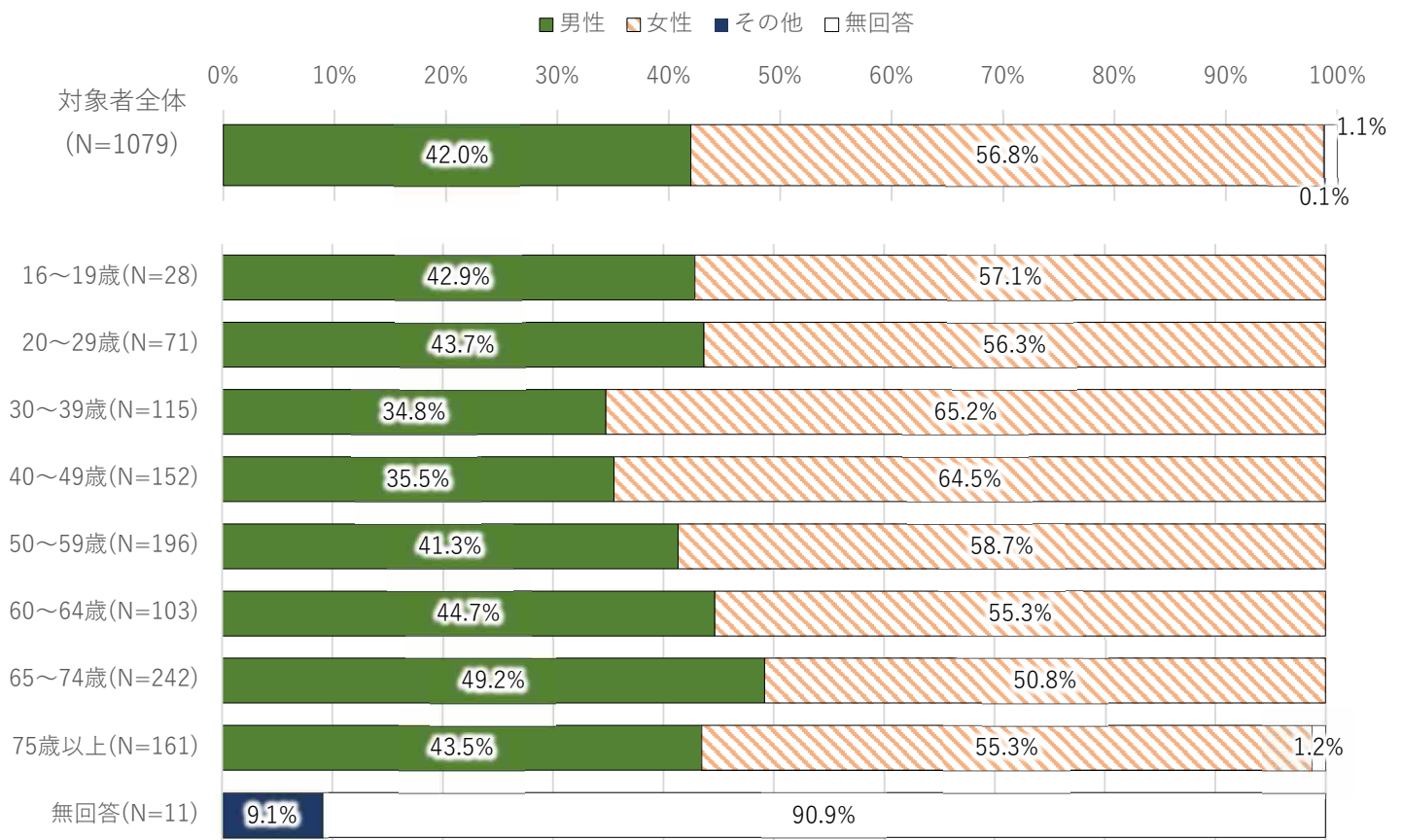
性別

問1 性別について、あてはまるものに○をつけてください。

性別については、「男性」が41.98%、「女性」56.81%となっている。

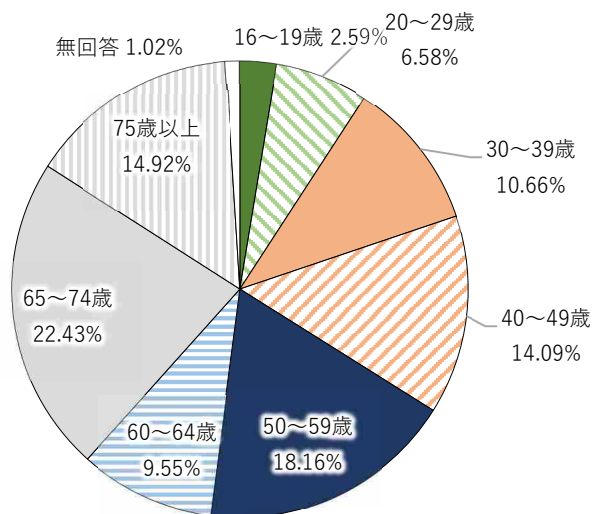


性別を年代別にみると、全ての年代で「女性」の割合が高く、特に30歳代、40歳代で6割以上となっている。

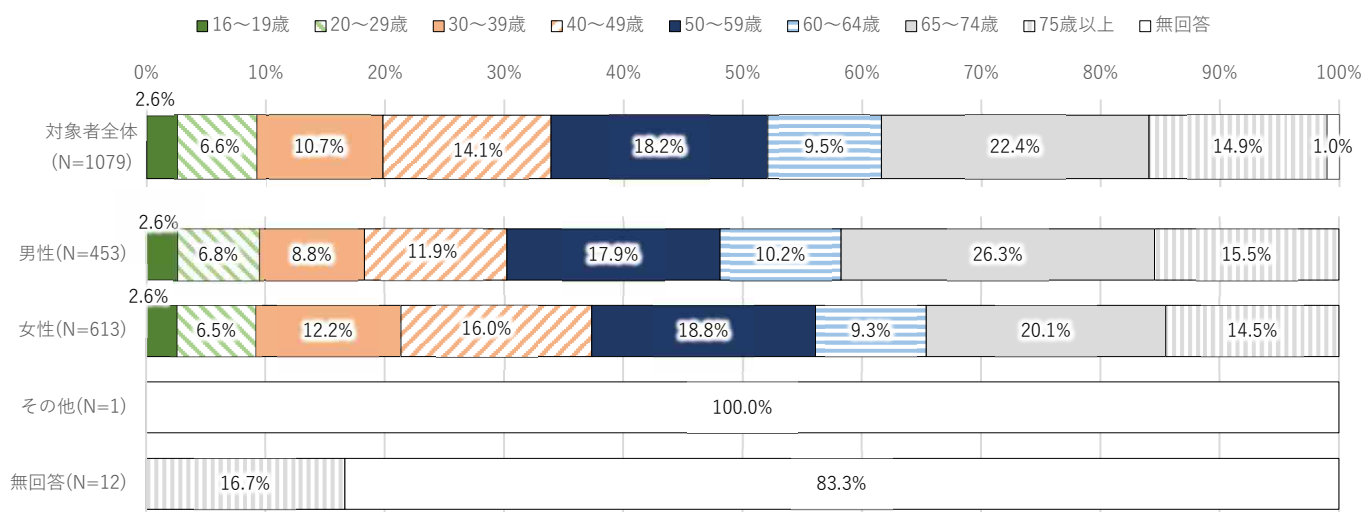


問2 現在の年齢について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

年代については、「65～74 歳」が 22.43%と最も高く、次いで「50～59 歳」が 18.16%、75 歳以上が 14.92%となっている。



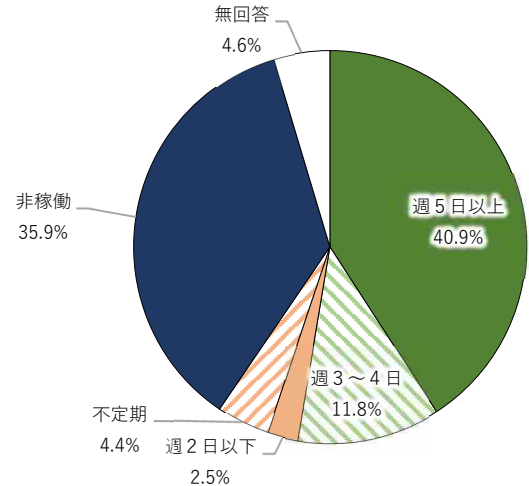
年代を男女別にみると、男女共に「65～74 歳」が最も高く、男性で 26.3%、女性で 20.1%となっている。次いで男女共「50～59 歳」で、男性が 17.9%、女性が 18.8%となっている。



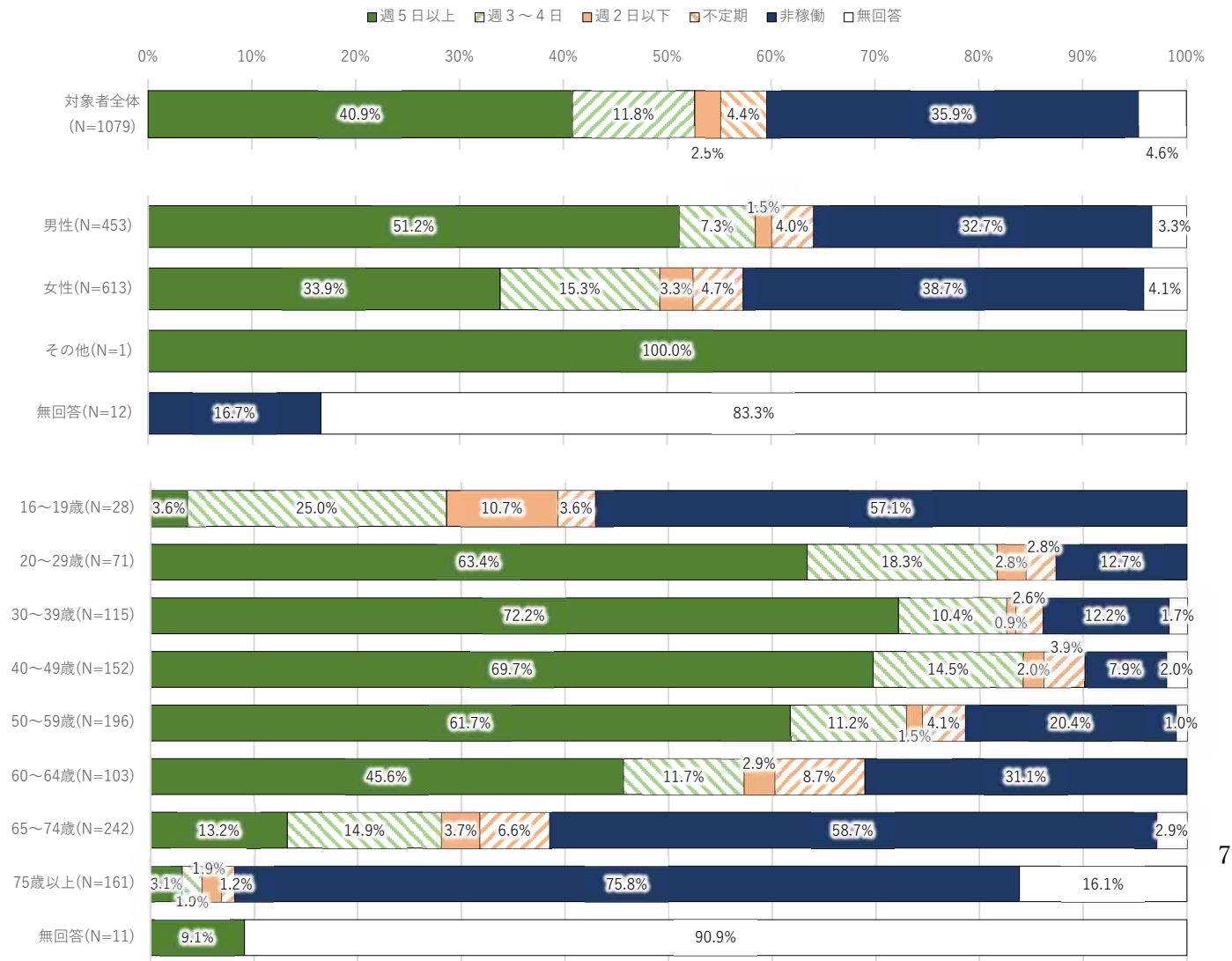
稼働状況

問3 稼働の状況（パート・アルバイトを含む）について、あてはまるもの1つに○をつけてく
ださい。

現在の稼働の状況については、「週5日以上」が40.9%と最も高く、次いで「非稼働」が35.9%となっている。

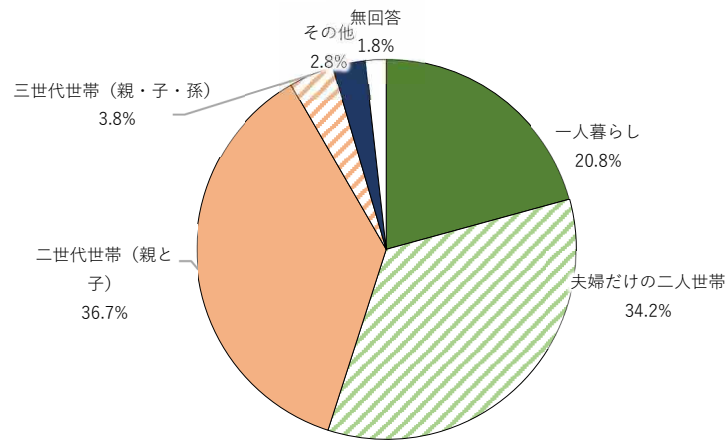


男女別に見てみると、男性では「週5日以上」が51.2%と最も高く、次いで「非稼働」が32.7%の順。女性では、「週5日以上」が33.9%、「非稼働」が38.7%と同等の割合となっている。さらに年代別に見てみると、20歳代から60～64歳までの年代で「週5日以上」の割合が高い。

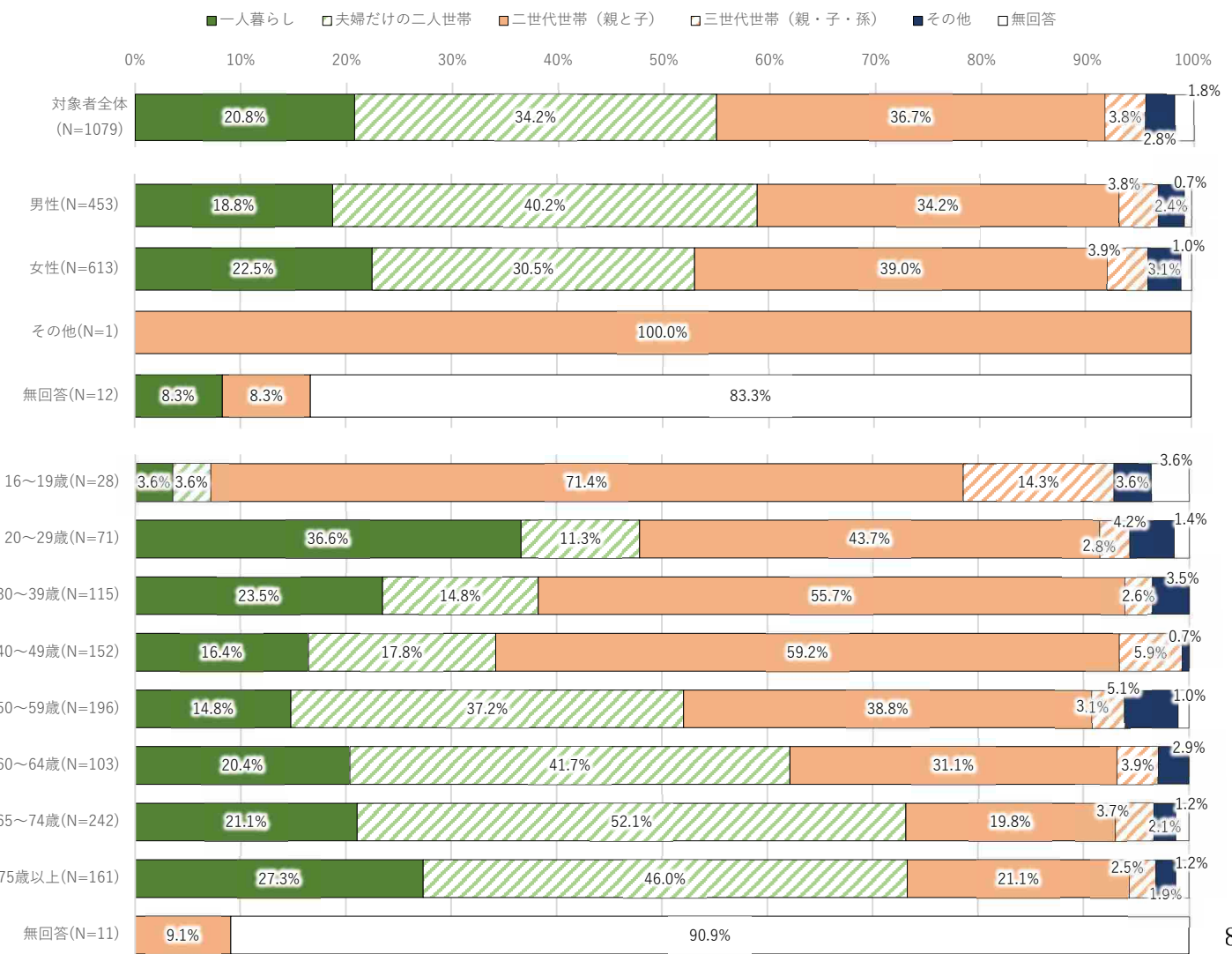


問4 家族の形態について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

家族形態については、「二世世代世帯（親と子）」が36.7%、「夫婦だけの二世世帯」が34.2%と近い割合を示し、「一人暮らし」は20.8%となっている。



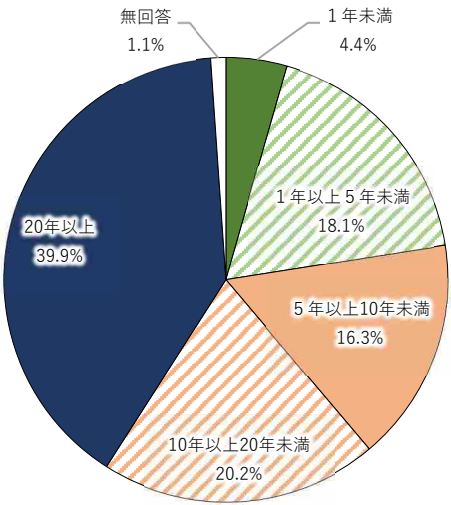
また、家族形態を男女別にみると、男性で「夫婦だけの二世世帯」が40.2%、女性で「二世世代世帯（親と子）」が39%と最も高い割合となっている。さらに年代別にみると、20歳代では「一人暮らし」が他の年代と比較し高い。30歳代、40歳代では「二世世代世帯（親と子）」の割合が高く、「夫婦だけの二世世帯」の割合は60歳以上の年代で高くなっている。



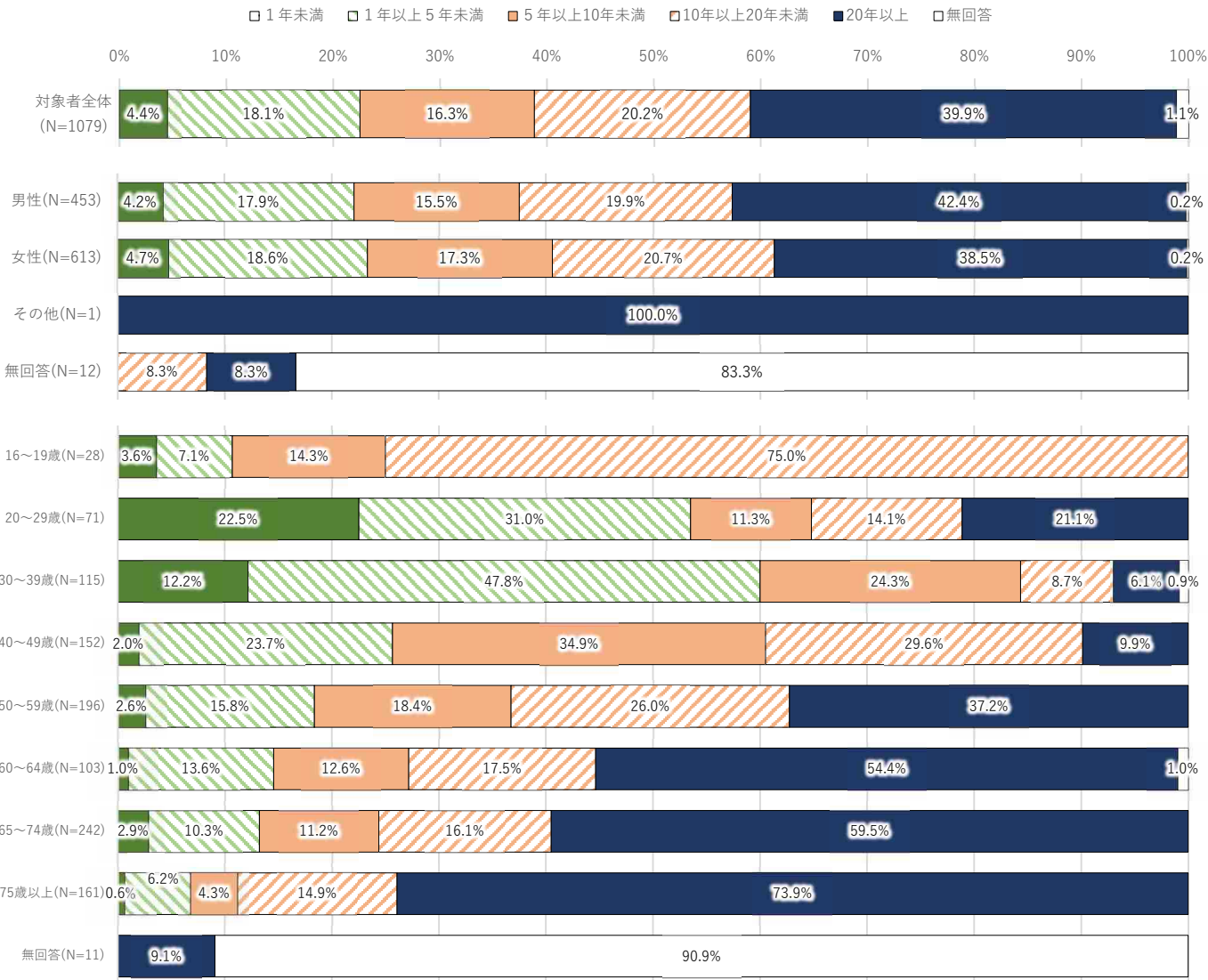
居住年数

問5 現在のところにお住まいの年数について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

居住年数については、「20 年以上」が 39.9%と最も高く、次いで「10 年以上 20 年未満」が 20.2%、「1 年以上 5 年未満」が 18.1% となっている。

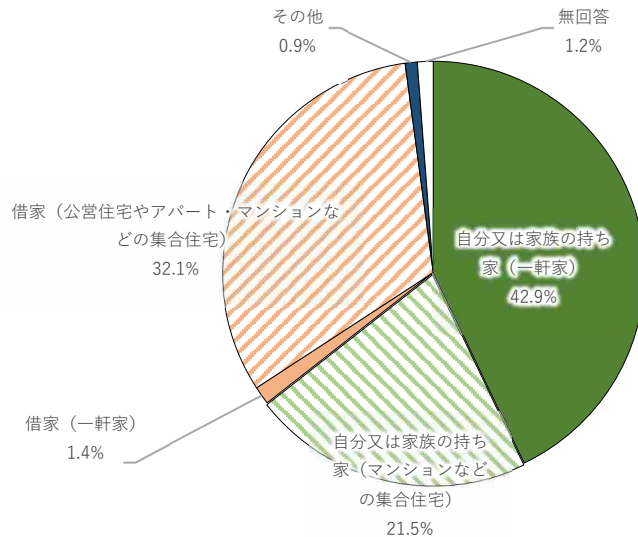


また、居住年数を男女別にみると、男女共に「20 年以上」が最も高く、次いで男女共「10 年以上 20 年未満」となっている。さらに年代別にみると、50 歳代以上で「20 年以上」の割合が他の年代に比べ最も高くなっている。

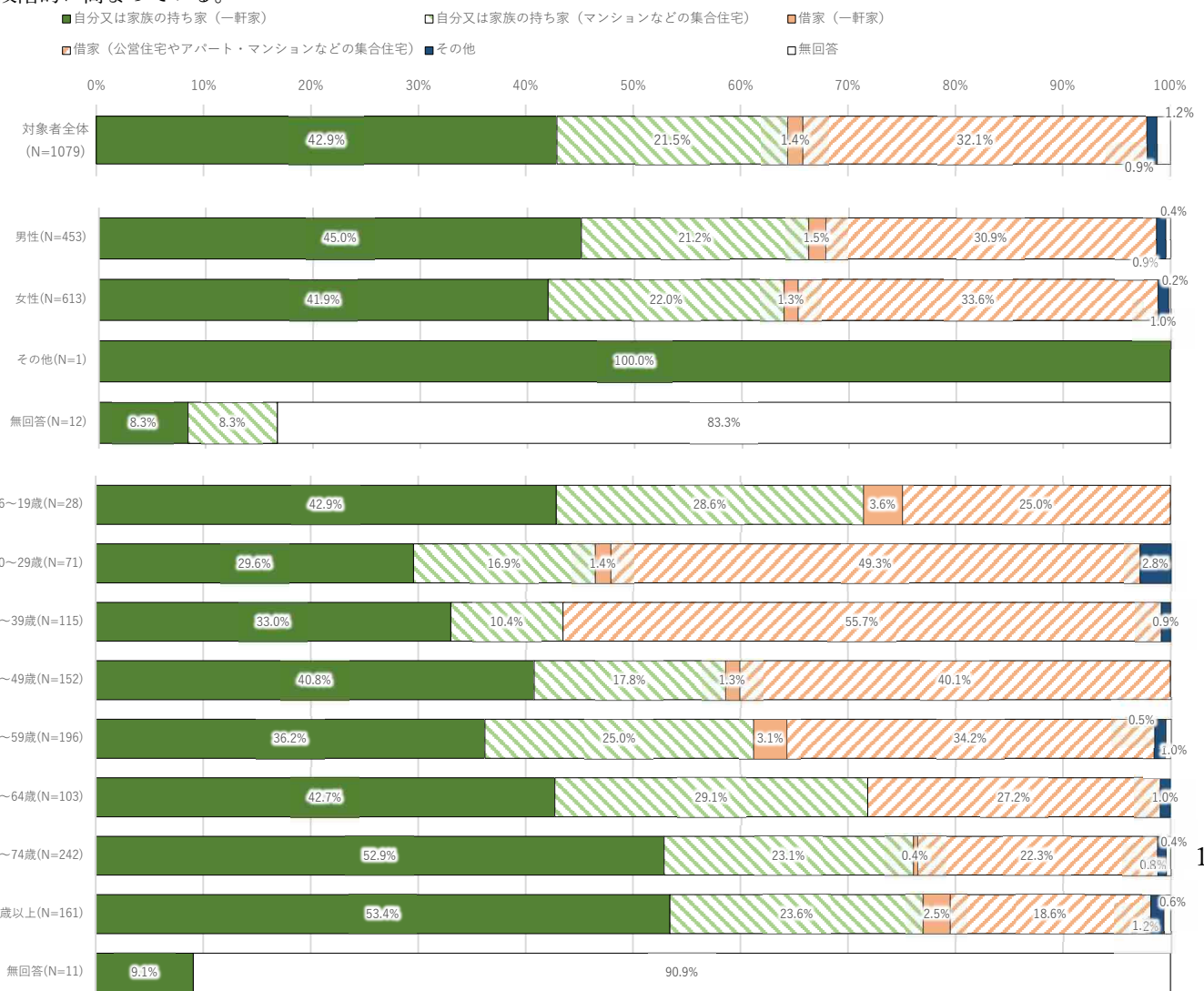


問6 お住まいの住宅について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

居住形態については、「自分又は家族の持ち家（一軒家）」が42.9%と最も高く、次いで「借家（公営住宅やアパート・マンションなどの集合住宅）」が32.1%、「自分又は家族の持ち家（マンションなどの集合住宅）」が21.5%と高くなっている。



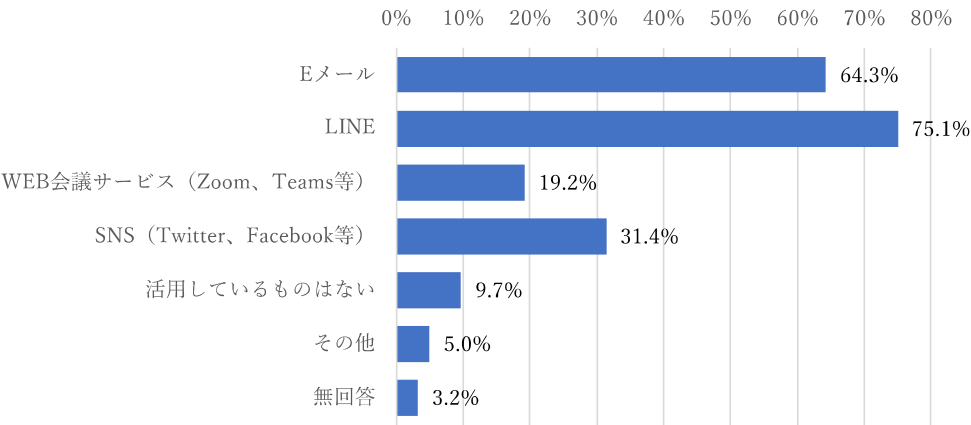
また、居住形態を男女別にみると、男女共に「自分又は家族の持ち家（一軒家）」割合が高く、次いで「借家（公営住宅やアパート・マンションなどの集合住宅）」、「自分又は家族の持ち家（マンションなどの集合住宅）」の順となる。さらに年代別に見てみると、30歳代から年代が上がるにつれ、「自分又は家族の持ち家（一軒家）」「自分又は家族の持ち家（マンションなどの集合住宅）」の割合が段階的に高まっている。



通信手段

問7 あなたは、次の通信・連絡手段を普段活用していますか。あてはまるもの全てに○をつけ
てください。

通信・連絡手段として、「LINE」の割合が一番高く、75.1%を示している。次いで「Eメール」が64.3%、「SNS（Twitter、Facebook等）」が31.4%となっている。



また、男女別に見てみると、「LINE」「SNS（Twitter、Facebook等）」の割合は女性が高く、「Eメール」は男性が高くなっている。そして、年代別でみると、40歳以下で「LINE」の割合が9割を超えている。「Eメール」の割合は50歳代で80.1%となり、同年代では「LINE」との割合が拮抗している。

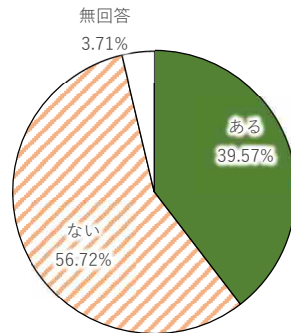
		Eメール	LINE	（Z W o o m、E B 会議 サービス等）	S F a c e b o o k、N S（T w i t t e r、等）	活用しているものはない	その他	無回答
対象者全体(N=1079)		64.30%	75.20%	19.20%	31.40%	9.70%	5.00%	3.20%
性別	男性(N=453)	68.20%	72.60%	20.50%	29.10%	10.60%	5.70%	2.00%
	女性(N=613)	62.60%	78.50%	18.40%	33.60%	9.00%	4.60%	2.40%
	その他(N=1)	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	無回答(N=12)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	16.70%	0.00%	83.30%
年代	16～19歳(N=28)	42.90%	96.40%	25.00%	82.10%	3.60%	0.00%	0.00%
	20～29歳(N=71)	77.50%	94.40%	40.80%	77.50%	1.40%	5.60%	0.00%
	30～39歳(N=115)	76.50%	99.10%	32.20%	56.50%	0.90%	0.90%	0.00%
	40～49歳(N=152)	78.30%	91.40%	32.90%	48.70%	0.70%	1.30%	0.70%
	50～59歳(N=196)	80.10%	85.70%	21.90%	32.70%	3.60%	3.60%	0.50%
	60～64歳(N=103)	68.00%	84.50%	21.40%	19.40%	5.80%	3.90%	0.00%
	65～74歳(N=242)	59.50%	65.70%	6.20%	10.30%	16.10%	6.20%	2.50%
	75歳以上(N=161)	29.80%	30.40%	1.90%	7.50%	30.40%	13.00%	9.90%
	無回答(N=11)	9.10%	9.10%	9.10%	9.10%	0.00%	0.00%	90.90%

Ⅱ 地域活動について

地域活動の参加経験

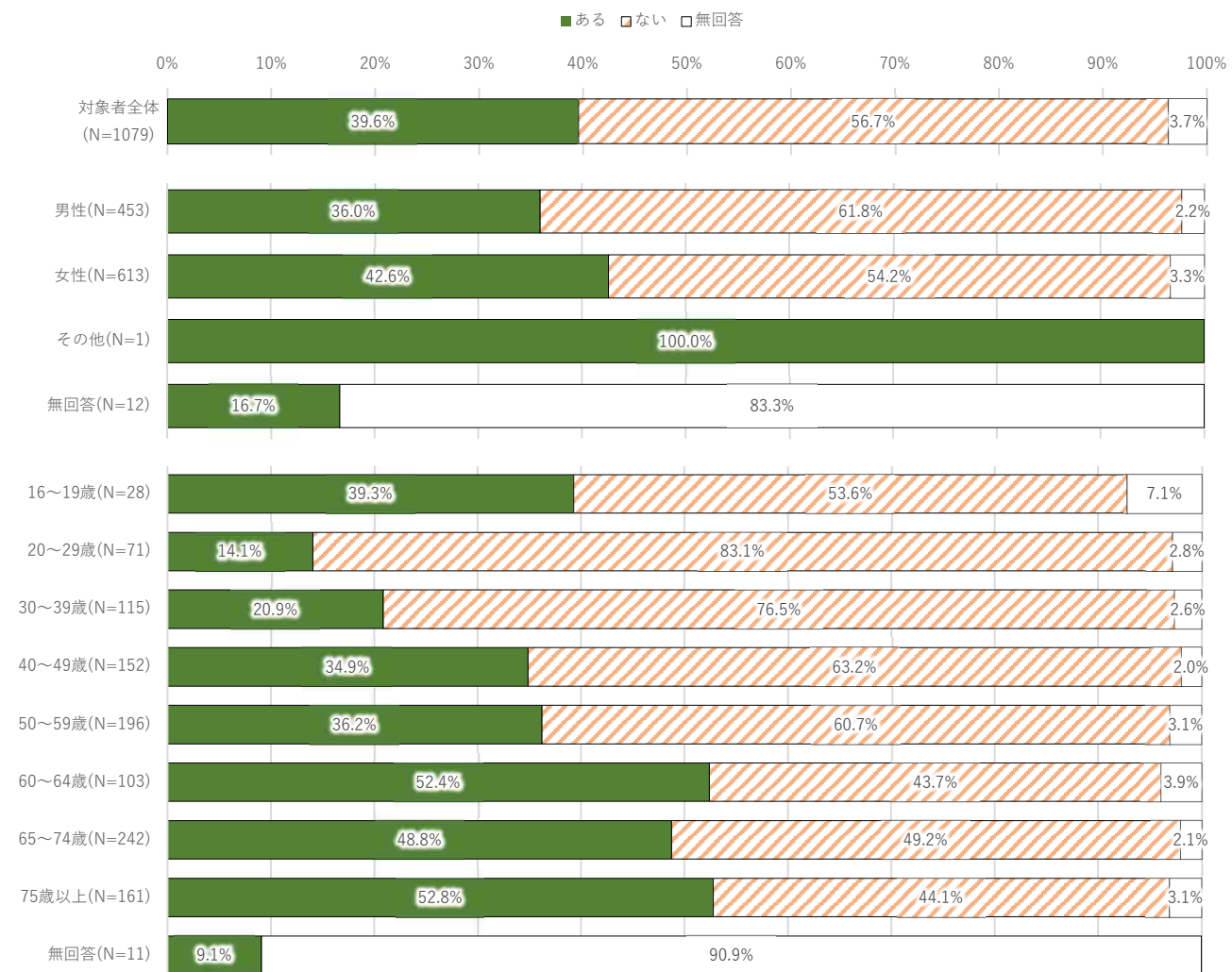
問8 あなたは、地域活動に参加したことがありますか。 あてはまるもの1つに○をつけてください。

地域活動の参加経験については、参加したことが「ある」に 39.57%、参加したことが「ない」が 56.72%となっている。



また、地域活動の参加経験を男女別にみると、参加したことが「ない」の割合が男女共に高く、参加したことが「ある」では、男性で 36%、女性で 42.6%となっている。

さらに年代別にみると、60～64 歳と 75 歳以上で参加したことが「ある」が 5 割を超えており、一方 16～19 歳代で参加したことが「ある」が 4 割近くを示し、20 歳代、30 歳代に比べると高い割合を示している。

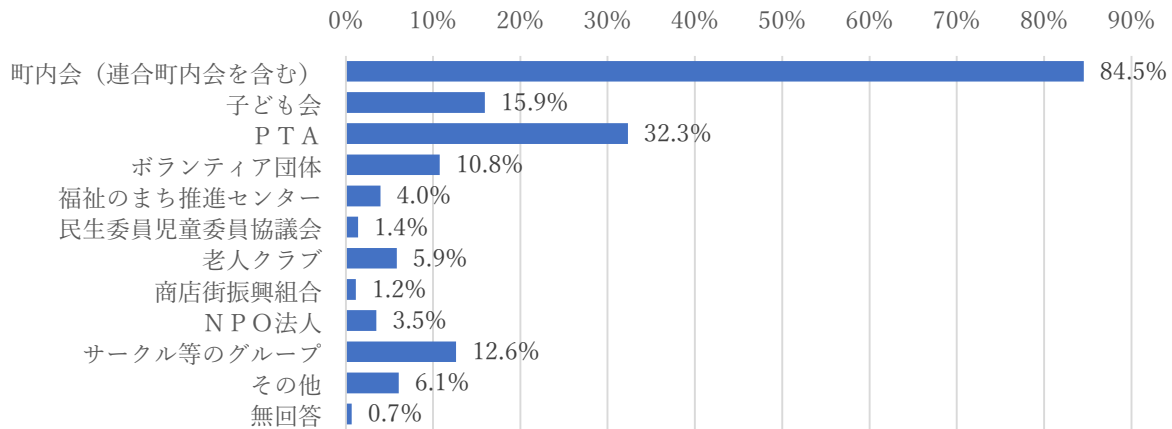


問9 あなたは、お住まいの地域で、次のような団体の地域活動に参加したことがありますか。

あてはまるもの全てに○をつけてください。

<問8で「1 ある」に○をつけた方が対象>

参加したことが「ある」と回答した方に、参加経験のある地域活動実施団体について聞いたところ、「町内会（連合町内会を含む）」が84.5%と最も高く、次いで「PTA」が32.3%、「サークル等のグループ」が12.6%となっている。

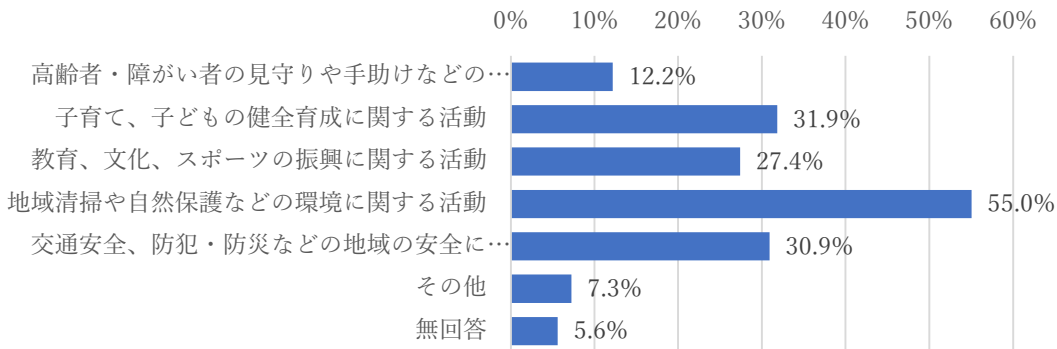


また、参加経験のある地域活動実施団体を男女別にみると、「町内会（連合町内会を含む）」で男女共に84.7%を示している。一方、「子ども会」「PTA」では女性が男性と比べ高い割合となっている。さらに年代別にみると、30歳代以外で「町内会（連合町内会を含む）」が7割を超えている。また、40歳代で「PTA」が58.5%と、他の年代と比べ著しく高い割合となった。

		町内会（連合町内会を含む）	子ども会	PTA	ボランティア団体	福祉のまち推進センター	民生委員児童委員協議会	老人クラブ	商店街振興組合	NPO法人	サークル等のグループ	その他	無回答
対象者全体(N=427)		84.50%	15.90%	32.30%	10.80%	4.00%	1.40%	5.90%	1.20%	3.50%	12.60%	6.10%	0.70%
性別	男性(N=163)	84.70%	7.40%	6.10%	11.00%	2.50%	0.00%	4.30%	1.20%	3.70%	8.60%	8.00%	0.60%
	女性(N=261)	84.70%	21.50%	48.30%	10.70%	4.60%	2.30%	6.90%	1.10%	3.40%	14.90%	5.00%	0.80%
	その他(N=1)	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	無回答(N=2)	100.00%	0.00%	50.00%	0.00%	50.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	50.00%	0.00%	0.00%
年代	16～19歳(N=11)	72.70%	36.40%	0.00%	18.20%	0.00%	0.00%	0.00%	9.10%	9.10%	0.00%	18.20%	0.00%
	20～29歳(N=10)	70.00%	30.00%	20.00%	10.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	10.00%	20.00%	0.00%	0.00%
	30～39歳(N=24)	54.20%	25.00%	25.00%	4.20%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	8.30%	12.50%	4.20%
	40～49歳(N=53)	79.20%	28.30%	58.50%	5.70%	1.90%	0.00%	1.90%	0.00%	1.90%	3.80%	3.80%	0.00%
	50～59歳(N=71)	81.70%	11.30%	26.80%	12.70%	0.00%	1.40%	2.80%	2.80%	5.60%	4.20%	5.60%	1.40%
	60～64歳(N=54)	96.30%	14.80%	35.20%	16.70%	0.00%	1.90%	3.70%	3.70%	7.40%	5.60%	7.40%	0.00%
	65～74歳(N=118)	93.20%	9.30%	22.90%	6.80%	6.80%	1.70%	5.90%	0.00%	2.50%	11.00%	5.10%	0.00%
	75歳以上(N=85)	83.50%	5.90%	17.60%	17.60%	5.90%	2.40%	17.60%	1.20%	2.40%	23.50%	7.10%	1.20%
	無回答(N=1)	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

問 10 あなたは、上記団体が行う次の活動のうち、どのような活動に参加したことがありますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

地域活動団体への参加内容については、「地域清掃や自然保護などの環境に関する活動」が55%と最も高く、次いで「交通安全、防犯・防災などの地域の安全に関する活動」が30.9%、「子育て、子どもの健全育成に関する活動」が31.9%となっている。



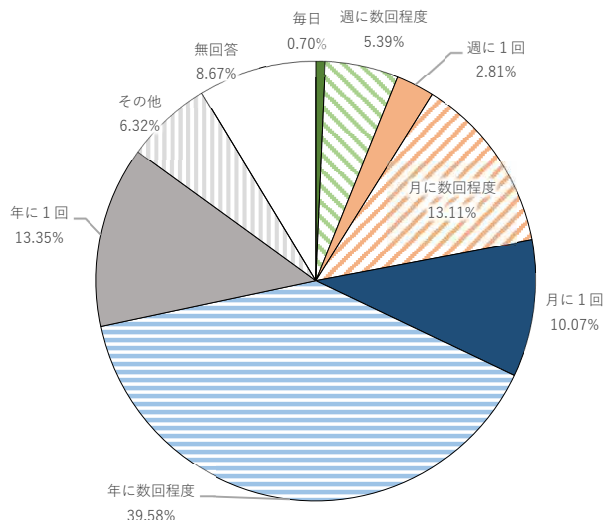
また、地域活動団体への参加内容を男女別にみると、「子育て、子どもの健全育成に関する活動」は男性で11.7%、女性で44.4%と女性の割合が大きく上回っている。さらに年代別にみると、30歳代を除く各年代で「地域清掃や自然保護などの環境に関する活動」が5割以上を示している一方、「子育て、子どもの健全育成に関する活動」が30～50歳代で高い割合となっており、特に40歳代では64.2%となっている。

		高齢者・障がい者の見守りや手助けなどの活動	子育て、子どもの健全育成に関する活動	教育、文化、スポーツの振興に関する活動	地域清掃や自然保護などの環境に関する活動	交通安全、防犯・防災などの地域の安全に関する活動	その他	無回答
対象者全体(N=427)		12.20%	31.90%	27.40%	55.00%	30.90%	7.30%	5.60%
性別	男性(N=163)	9.80%	11.70%	25.20%	61.30%	27.00%	8.00%	5.50%
	女性(N=261)	13.80%	44.40%	29.10%	51.30%	33.00%	6.90%	5.40%
	その他(N=1)	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%
	無回答(N=2)	0.00%	0.00%	0.00%	50.00%	50.00%	0.00%	50.00%
年代	16～19歳(N=1)	0.00%	18.20%	36.40%	54.50%	36.40%	0.00%	0.00%
	20～29歳(N=1)	30.00%	20.00%	50.00%	50.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	30～39歳(N=2)	8.30%	45.80%	29.20%	33.30%	12.50%	4.20%	8.30%
	40～49歳(N=5)	5.70%	64.20%	30.20%	52.80%	35.80%	5.70%	0.00%
	50～59歳(N=7)	9.90%	46.50%	38.00%	53.50%	39.40%	7.00%	5.60%
	60～64歳(N=5)	20.40%	31.50%	24.10%	64.80%	35.20%	7.40%	5.60%
	65～74歳(N=1)	13.60%	19.50%	21.20%	61.00%	31.40%	8.50%	7.60%
	75歳以上(N=8)	11.80%	15.30%	23.50%	50.60%	24.70%	9.40%	7.10%
	無回答(N=1)	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%

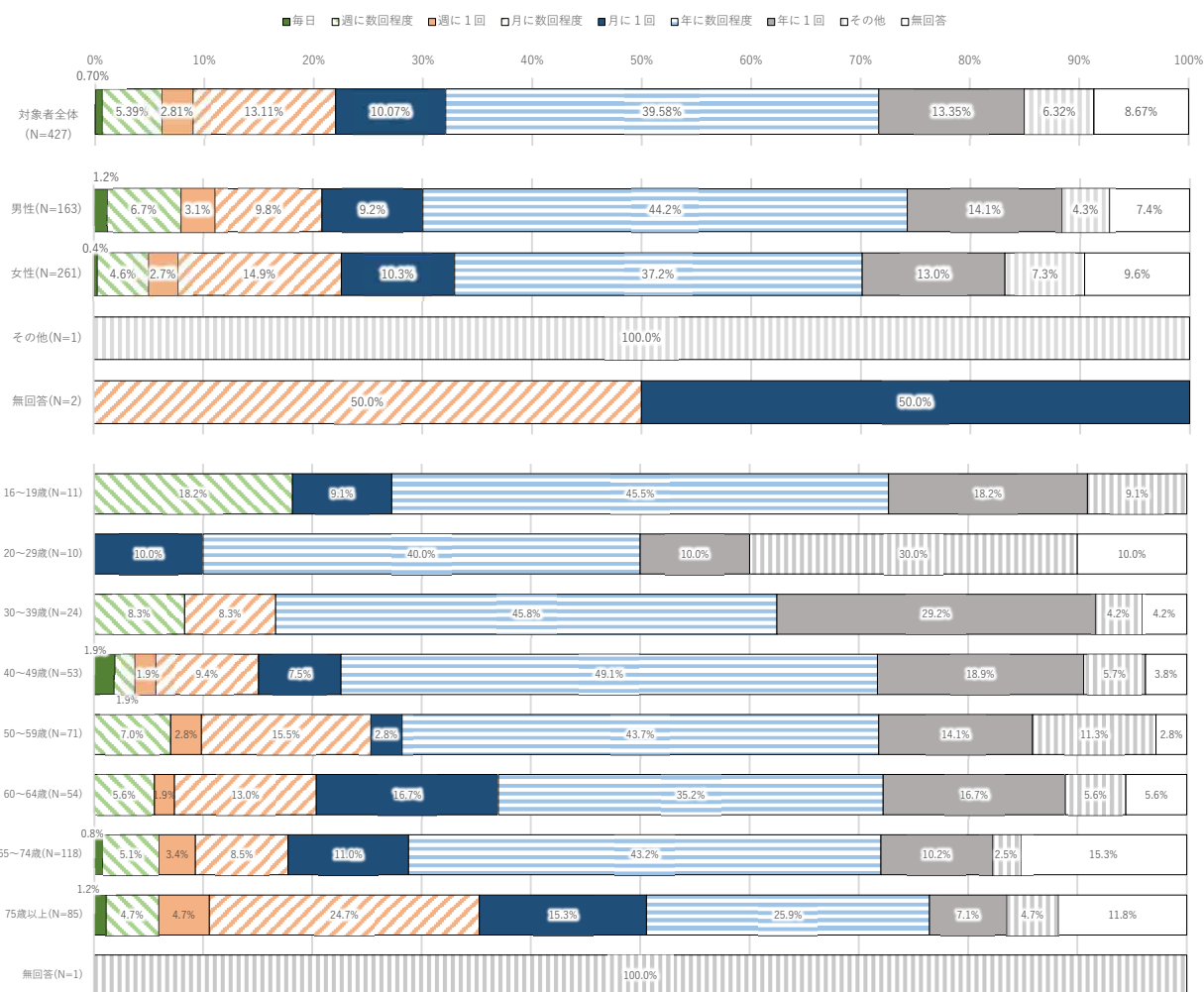
問 11 あなたは、どのくらいの頻度で地域活動に参加していますか（いましたか）。あてはまる

もの 1 つに○をつけてください。

地域活動への参加頻度については、「年に数回程度」が 39.58%と最も高く、次いで「年に 1 回」が 13.35%、「月に数回程度」が 13.11%となっている。



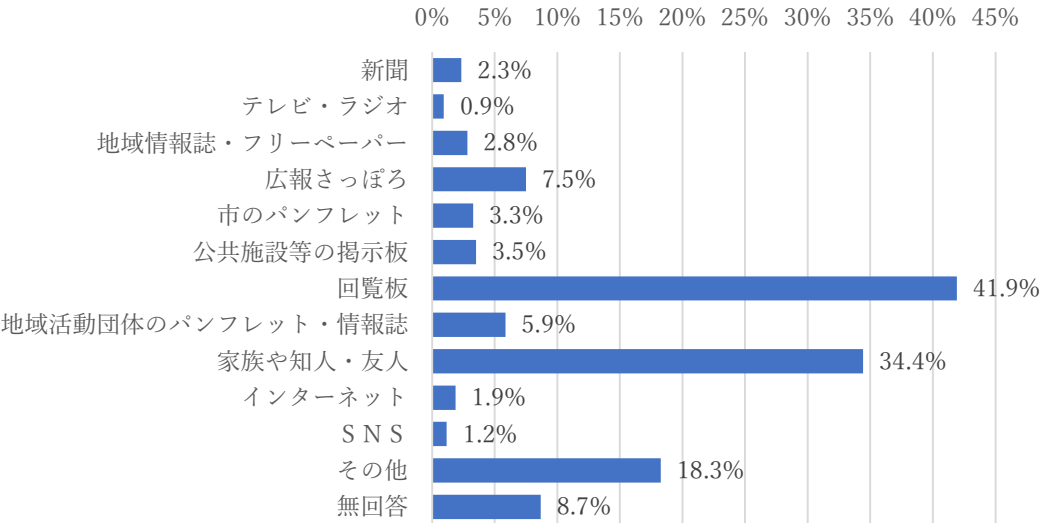
また、地域活動への参加頻度を男女別にみると、男女共に「年に数回程度」が 4 割程度と最も高くなっている。さらに年代別にみると、各年代とも「年に数回程度」の割合が高いが、75 歳以上の年代については「月に数回程度」が 24.7%、「年に数回程度」が 25.9%とその割合が拮抗している。



地域活動への参加のきっかけ

問 12 あなたが地域活動に参加することになったきっかけは何ですか。 あてはまるもの全てに○
をつけてください。

地域活動への参加のきっかけについては、「回覧板」が41.9%と最も高く、次いで「家族や知人・友人」が34.4%と高い。



また地域活動への参加のきっかけを男女別に見てみると、「回覧板」では、男性の方が女性よりも高く、「家族や知人・友人」では、女性の方が男性より高い割合となっている。さらに年代別で見ると、16～19歳代で「家族や知人・友人」の割合が90.9%と著しく高くなっている。また、65～74歳代では「回覧板」の割合が51.7%と高い割合となった。

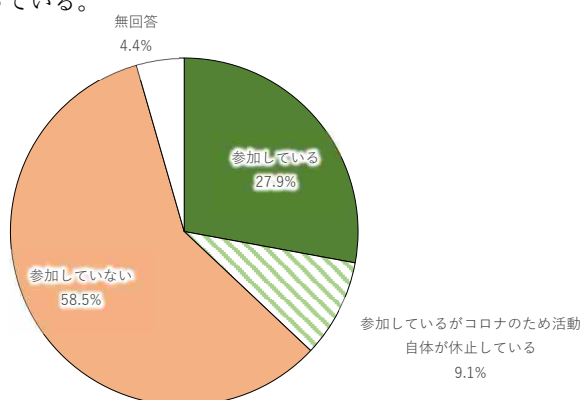
		新聞	テレビ・ラジオ	地域情報誌・フリーペーパー	広報さっぽろ	市のパンフレット	公共施設等の掲示板	回覧板	地域活動団体のパンフレット・情報誌	家族や知人・友人	インターネット	SNS	その他	無回答
対象者全体(N=427)		2.30%	0.90%	2.80%	7.50%	3.30%	3.50%	41.90%	5.90%	34.40%	1.90%	1.20%	18.30%	8.70%
性別	男性(N=163)	1.20%	1.20%	4.30%	5.50%	3.70%	2.50%	45.40%	6.70%	29.40%	3.10%	1.20%	19.60%	8.00%
	女性(N=261)	3.10%	0.80%	1.90%	8.80%	3.10%	3.80%	39.50%	5.40%	37.90%	1.10%	0.80%	17.60%	9.20%
	その他(N=1)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%
	無回答(N=2)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	50.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
年代	16～19歳(N=11)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	18.20%	0.00%	90.90%	0.00%	0.00%	9.10%	0.00%
	20～29歳(N=10)	0.00%	0.00%	0.00%	10.00%	0.00%	10.00%	30.00%	0.00%	30.00%	0.00%	0.00%	20.00%	10.00%
	30～39歳(N=24)	0.00%	0.00%	4.20%	8.30%	0.00%	4.20%	33.30%	8.30%	33.30%	8.30%	4.20%	20.80%	0.00%
	40～49歳(N=53)	0.00%	0.00%	1.90%	7.50%	3.80%	1.90%	47.20%	5.70%	32.10%	1.90%	3.80%	28.30%	5.70%
	50～59歳(N=71)	0.00%	0.00%	2.80%	7.00%	0.00%	2.80%	32.40%	2.80%	47.90%	2.80%	0.00%	23.90%	2.80%
	60～64歳(N=54)	0.00%	0.00%	1.90%	5.60%	3.70%	1.90%	37.00%	3.70%	31.50%	1.90%	0.00%	20.40%	5.60%
	65～74歳(N=118)	3.40%	0.80%	3.40%	9.30%	3.40%	3.40%	51.70%	9.30%	28.00%	0.00%	0.00%	12.70%	13.60%
	75歳以上(N=85)	7.10%	3.50%	3.50%	7.10%	7.10%	5.90%	43.50%	5.90%	29.40%	2.40%	1.20%	14.10%	14.10%
	無回答(N=1)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%

地域活動への現在の参加状況

問 13 あなたは現在、地域活動に参加していますか。 あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

い。

地域活動への現在の参加状況を見てみると、「参加していない」が 58.5% の割合となっている。また「参加しているがコロナのため活動自体が休止している」は 9.1% の割合となっている。



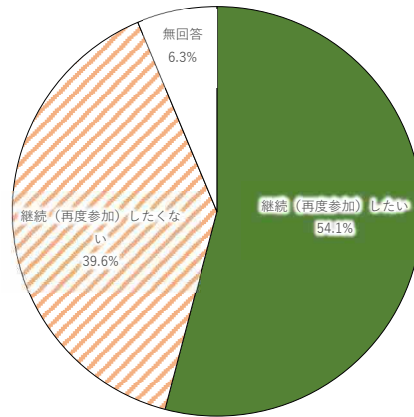
地域活動への現在の参加状況を男女別に見てみると、男性で「参加している」が 29.4% と、女性よりもわずかに高い割合となっている。さらに、年代別で見ると、「参加している」の割合は 75 歳以上で 42.4% と高く、次いで 40 歳代で 32.1% となっている。



地域活動継続（再開）意思の有無

問 14 あなたは、地域活動を今後も継続したい（現在参加していない場合は再度参加したい）と思いますか。 あてはまるもの1つに○をつけてください。

地域活動の参加経験者に継続（再開）意思の有無については、「継続（再度参加）したい」が54.1%となっており、「継続（再度参加）したくない」が39.6%となっている。



また、地域活動継続（再開）意思の有無を男女別にみると、男女共に「継続（再度参加）したい」が5割を超えており、「継続（再度参加）したくない」は男性で41.1%、女性で38.3%となっている。さらに年代別にみると、30～40歳代で「継続（再度参加）したくない」が5割を超えている。一方で16～19歳代で「継続（再度参加）したい」が72.7%と非常に高い割合となっている。



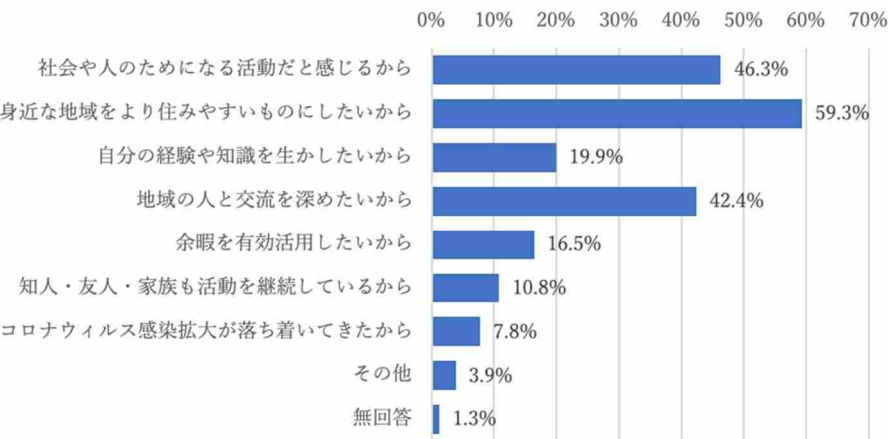
継続（再度参加）の意志の理由

問 15 あなたが、「継続（再度参加）したい」と答えた理由は何ですか。 あてはまるもの全てに

○をつけてください。

<問 14 で「1 継続（再度参加）したい」と答えた方が対象>

継続・再度参加の理由としては、「身近な地域をより住みやすいものにしたいから」が 59.3%と最も高く、次いで「社会や人のためになる活動だと感じるから」が 46.3%、「地域の人と交流を深めたいから」が 42.4%の順となっている。



また、継続・再度参加の理由を男女別に見てみると、「身近な地域をより住みやすいものにしたいから」の男性の割合が 67.4%と、女性に比べると 10 ポイント以上の差で高くなっている。さらに年代別で見ると、20 歳代で「社会や人のためになる活動だと感じるから」が 75%と高い割合を示し、65～74 歳代で「身近な地域をより住みやすいものにしたいから」が 71.2%と高い割合となっている。また「地域の人と交流を深めたいから」は 16～19 歳代、75 歳以上で 5 割以上となっている。

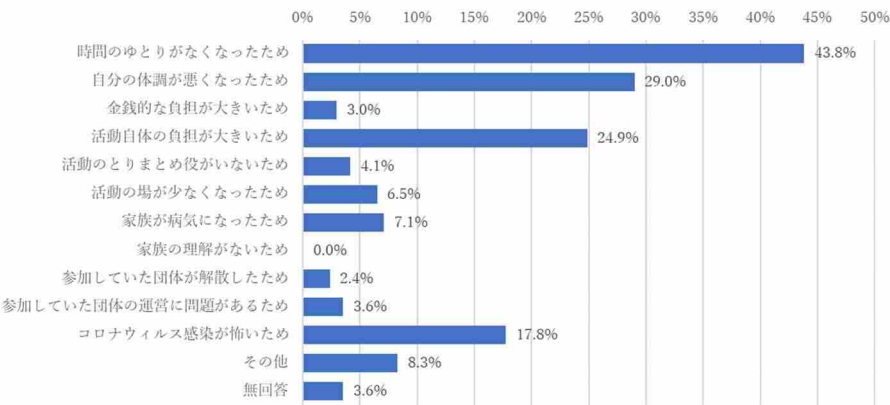
		社会 や人の ため になる 活 動 だ と 感 じ る か ら	身 近 な 地 域 を よ り 住 み や す い に し た い か ら	自 分 の 経 験 や 知 識 を 生 か し た い か ら	地 域 の 人 と 交 流 を 深 め た い か ら	余 暇 を 有 効 活 用 し た い か ら	知 人 ・ 友 人 ・ 家 族 も 活 動 を 継 続 し て い る か ら	コ ロ ナ ウ ィ ル ス 感 染 拡 大 が 落 ち 着 い て き た か ら	そ の 他	無 回 答
対象者全体(N=231)		46.30%	59.30%	19.90%	42.40%	16.50%	10.80%	7.80%	3.90%	1.30%
性 別	男性(N=86)	48.80%	67.40%	22.10%	41.90%	16.30%	12.80%	4.70%	3.50%	0.00%
	女性(N=144)	44.40%	54.90%	18.10%	42.40%	16.70%	9.70%	9.70%	4.20%	2.10%
	その他(N=0)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	無回答(N=1)	100.00%	0.00%	100.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
年 代	16～19歳(N=8)	50.00%	25.00%	37.50%	50.00%	25.00%	25.00%	12.50%	12.50%	0.00%
	20～29歳(N=4)	75.00%	25.00%	50.00%	0.00%	25.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	30～39歳(N=11)	36.40%	54.50%	18.20%	54.50%	9.10%	18.20%	0.00%	0.00%	0.00%
	40～49歳(N=32)	56.30%	53.10%	12.50%	43.80%	9.40%	6.30%	0.00%	9.40%	0.00%
	50～59歳(N=39)	64.10%	61.50%	25.60%	30.80%	10.30%	7.70%	2.60%	7.70%	0.00%
	60～64歳(N=25)	48.00%	60.00%	32.00%	32.00%	20.00%	4.00%	4.00%	4.00%	0.00%
	65～74歳(N=66)	37.90%	71.20%	18.20%	43.90%	16.70%	9.10%	12.10%	1.50%	3.00%
	75歳以上(N=46)	34.80%	54.30%	10.90%	54.30%	23.90%	19.60%	15.20%	0.00%	2.20%
	無回答(N=0)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

問 16 活動を継続（再度参加）したくない理由は何のようなことですか。 あてはまるもの全てに

○をつけてください。

<問 14 で「2 継続（再度参加）したくない」と答えた方が対象>

非継続・非再度参加の理由としては、「時間のゆとりがなくなったため」が 43.8% と一番高く、次いで「自分の体調が悪くなったため」が 29%、「活動自体の負担が大きいため」が 24.9% の順となっている。



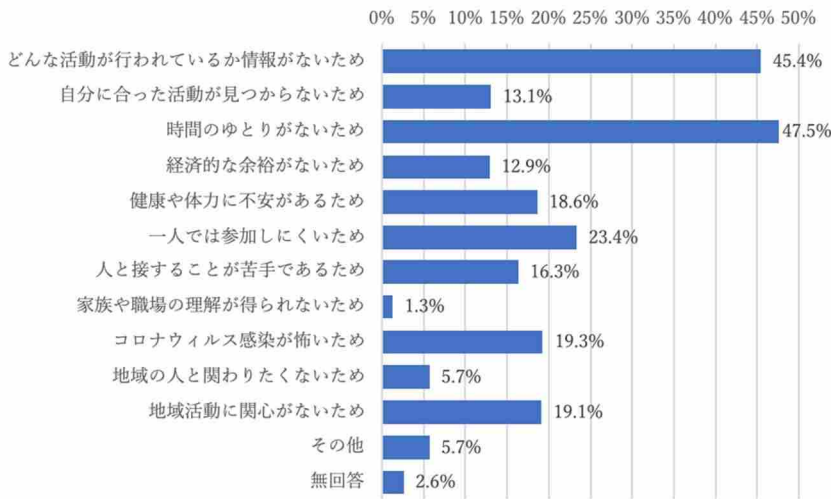
また、非継続・非再度参加の理由を男女別でみると、「時間のゆとりがなくなったため」と「活動自体の負担が大きいため」は男性よりも女性の割合が多く、「自分の体調が悪くなったため」は女性よりも男性の方が多い。さらに年代別で見ると、60～64 歳代以下の年代で、「時間のゆとりがなくなったため」の割合が多く、65 歳以上の年代で「自分の体調が悪くなったため」の割合が多くなっている。

		時間のゆとりがなくなったため	自分の体調が悪くなったため	金銭的な負担が大きいため	活動自体の負担が大きいため	活動のとりまとめ役がいなかったため	活動の場が少なくなったため	家族が病気になるため	家族の理解がないため	参加していた団体が解散したため	参加していた団体の運営に問題があるため	コロナウイルス感染が怖いため	その他	無回答
対象者全体(N=169)		43.80%	29.00%	3.00%	24.90%	4.10%	6.50%	7.10%	0.00%	2.40%	3.60%	17.80%	8.30%	3.60%
性別	男性(N=67)	38.80%	31.30%	3.00%	20.90%	6.00%	4.50%	9.00%	0.00%	3.00%	3.00%	14.90%	10.40%	1.50%
	女性(N=100)	47.00%	27.00%	3.00%	27.00%	3.00%	8.00%	6.00%	0.00%	2.00%	3.00%	20.00%	7.00%	5.00%
	その他(N=1)	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	無回答(N=1)	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
年代	16～19歳(N=3)	66.70%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	33.30%	0.00%
	20～29歳(N=5)	80.00%	20.00%	20.00%	0.00%	20.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	20.00%	0.00%
	30～39歳(N=13)	76.90%	7.70%	0.00%	30.80%	7.70%	7.70%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	7.70%	7.70%	0.00%
	40～49歳(N=18)	83.30%	11.10%	5.60%	50.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	16.70%	0.00%	0.00%
	50～59歳(N=30)	56.70%	6.70%	6.70%	26.70%	3.30%	13.30%	6.70%	0.00%	6.70%	6.70%	26.70%	10.00%	3.30%
	60～64歳(N=24)	45.80%	33.30%	0.00%	25.00%	0.00%	12.50%	4.20%	0.00%	0.00%	4.20%	16.70%	4.20%	0.00%
	65～74歳(N=42)	31.00%	33.30%	0.00%	21.40%	7.10%	2.40%	14.30%	0.00%	2.40%	4.80%	23.80%	7.10%	9.50%
	75歳以上(N=33)	3.00%	63.60%	3.00%	15.20%	3.00%	6.10%	9.10%	0.00%	3.00%	0.00%	12.10%	12.10%	3.00%
	無回答(N=1)	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%

問 17 現在、あなたが地域活動に参加していない理由は何ですか。 あてはまるもの全てに○をつ
けてください。

<問 8 で「2 ない」と答えた方が対象>

現在地域活動に参加していない理由としては、「時間のゆとりがないため」が 47.5%、「どんな活動が行われているか情報がないため」が 45.4%となった。



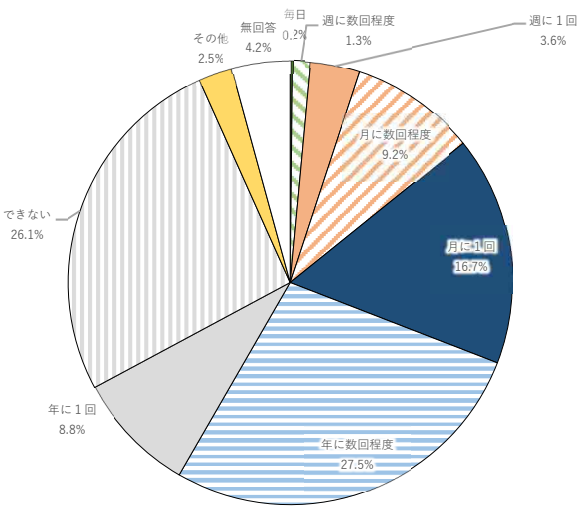
さらに現在地域活動に参加していない理由を男女別で見ると、「どんな活動が行われているか情報がないため」では女性の割合が高く、「時間のゆとりがないため」は男性の割合が高い。さらに年代別で見ると、20 歳代で「どんな活動が行われているか情報がないため」が 79.7%、「一人では参加しにくい」が 42.4%と他の年代より突出して割合が高かった。一方 65 歳以上の年代で、「健康や体力に不安があるため」が他の年代よりも高い割合だった。

	どんな活動が行われているか情報がないため	自分に合った活動が見つからないため	時間のゆとりがないため	経済的な余裕がないため	健康や体力に不安があるため	一人では参加しにくい	人と接することが苦手であるため	家族や職場の理解が得られないため	コロナウイルス感染が怖い	地域の人と関わりたくない	地域活動に関心がない	その他	無回答
対象者全体(N=612)	45.40%	13.10%	47.50%	12.90%	18.60%	23.40%	16.30%	1.30%	19.30%	5.70%	19.10%	5.70%	2.60%
性別													
男性(N=280)	44.30%	13.20%	48.90%	13.20%	14.60%	18.20%	17.10%	1.10%	18.90%	5.40%	23.20%	7.50%	3.90%
女性(N=332)	46.40%	13.00%	46.40%	12.70%	22.00%	27.70%	15.70%	1.50%	19.60%	6.00%	15.70%	4.20%	1.50%
その他(N=0)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
無回答(N=0)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
年代													
16～19歳(N=3)	53.30%	13.30%	46.70%	0.00%	13.30%	26.70%	26.70%	6.70%	6.70%	0.00%	33.30%	6.70%	13.30%
20～29歳(N=5)	79.70%	8.50%	55.90%	13.60%	1.70%	42.40%	16.90%	0.00%	18.60%	6.80%	23.70%	5.10%	0.00%
30～39歳(N=13)	53.40%	11.40%	62.50%	13.60%	5.70%	26.10%	15.90%	0.00%	15.90%	5.70%	18.20%	3.40%	0.00%
40～49歳(N=18)	53.10%	12.50%	62.50%	14.60%	6.30%	30.20%	27.10%	0.00%	19.80%	8.30%	28.10%	3.10%	1.00%
50～59歳(N=30)	43.70%	9.20%	58.80%	16.00%	21.00%	21.00%	11.80%	2.50%	20.20%	6.70%	18.50%	6.70%	1.70%
60～64歳(N=24)	42.20%	22.20%	48.90%	8.90%	11.10%	22.20%	11.10%	2.20%	15.60%	11.10%	22.20%	8.90%	6.70%
65～74歳(N=42)	29.40%	15.10%	27.70%	12.60%	33.60%	13.40%	12.60%	1.70%	22.70%	3.40%	11.80%	7.60%	3.40%
75歳以上(N=33)	26.80%	16.90%	15.50%	9.90%	42.30%	15.50%	16.90%	1.40%	21.10%	1.40%	12.70%	5.60%	5.60%
無回答(N=1)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

問 18 あなたが地域活動やボランティアに参加するとして、どの程度の参加が可能ですか。最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

<問8で「2 ない」と答えた方が対象>

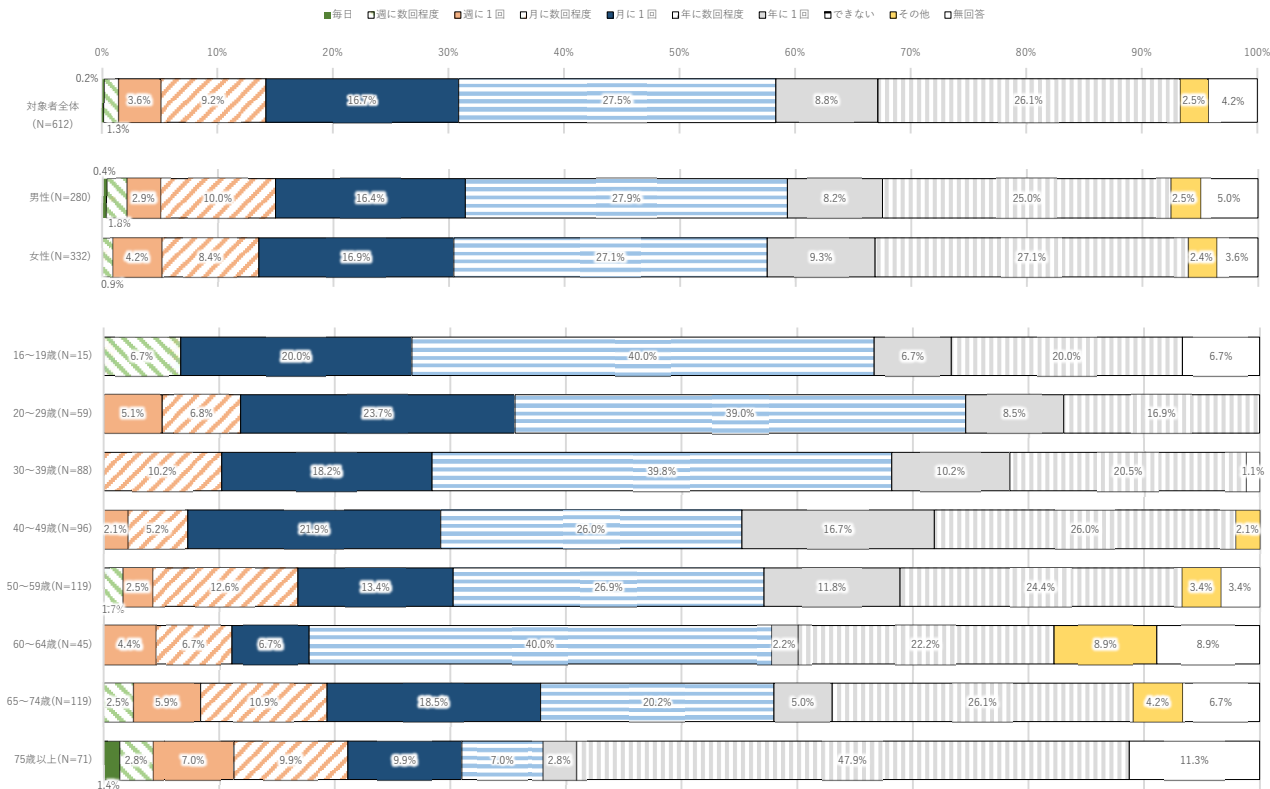
地域活動・ボランティアに未参加の方が参加するとした場合、参加が可能な回数については、「年に数回程度」が27.5%、次いで「できない」が26.1%、「月に1回」が16.7%となった。



さらに、男女別で見ても同程度の割合の構成比となった。

また年代別でみると、75歳以上で「できない」の割合が47.9%と著しく高かった。

16～19歳と、60～64歳の年代で「年に数回程度」の割合が他の年代よりも高かった。

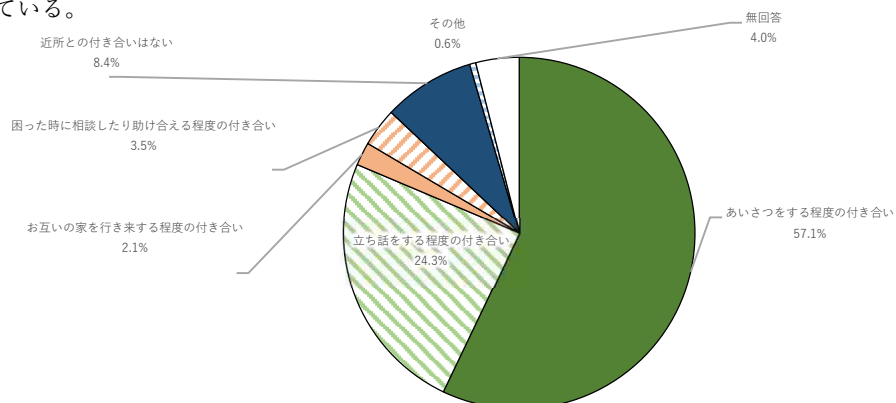


Ⅲ ご近所との付き合いについて

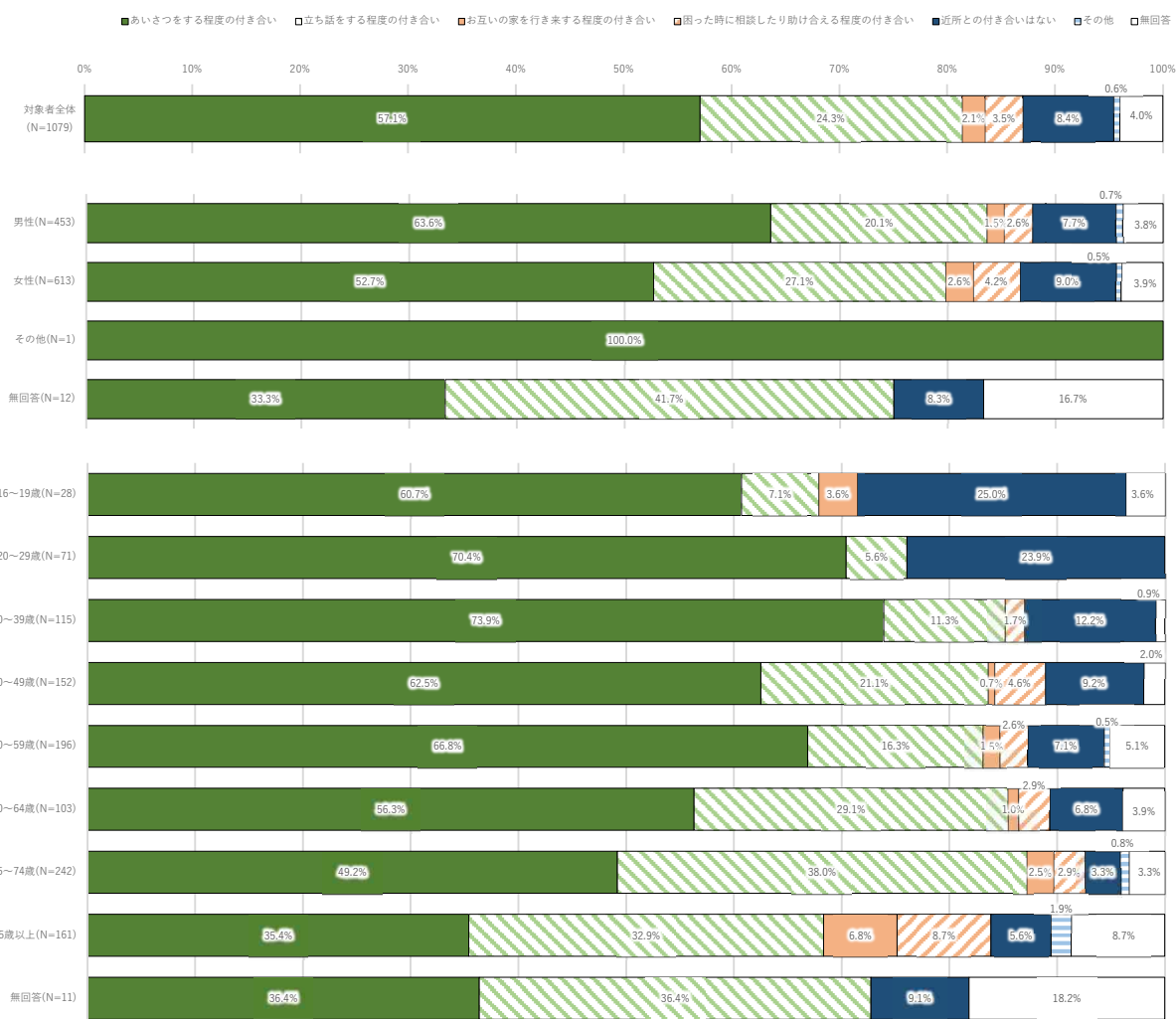
近所付き合いの程度

問 19 あなたはご近所とどのような付き合いがありますか。最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

近所付き合いの程度については、「あいさつをする程度の付き合い」が57.1%と最も高く、次いで「立ち話をする程度の付き合い」が24.3%となっている。



また、近所付き合いの程度を男女別にみると、男女共に「あいさつをする程度の付き合い」が5割を超えて最も高い。さらに年代別にみると、75歳以上では「お互いの家を行き来する程度の付き合い」が6.8%と他の年代と比較し高く、10歳代、20歳代では「近所との付き合いはない」が2割を超え他の年代と比較し高い。

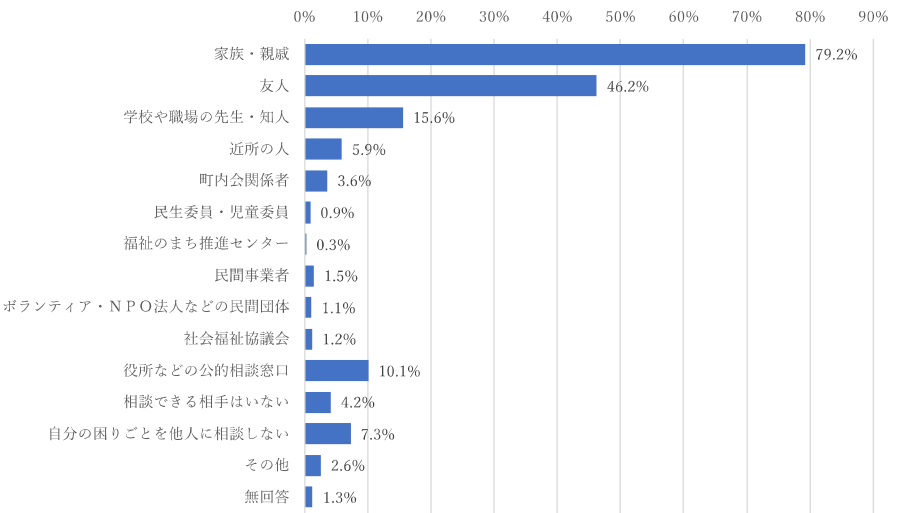


また、居住形態（問 6 の回答）別に近所付き合いの程度をみると、『自分又は家族の持ち家（一軒家）』を除いた居住形態では、「あいさつをする程度の付き合い」が 6 割以上となっている。特に、『自分又は家族の持ち家（マンションなどの集合住宅）』が 68.5% と他の居住形態と比べ最も高い。一方、『自分又は家族の持ち家（一軒家）』は「立ち話をする程度の付き合い」が 37.6% と最も高くなっている。また、『借家（公営住宅やアパート・マンションなどの集合住宅）』では、「近所との付き合いはない」が 18.5% と他の居住形態と比較し、高い割合となっている。

	あいさつをする程度の付き合い	立ち話をする程度の付き合い	お互いの家の付き合いに来する程度	困った時に相談したきり助け	近所との付き合いはない	その他	無回答
自分又は家族の持ち家（一軒家）(N=463)	46.40%	37.60%	2.60%	5.40%	2.80%	0.60%	4.50%
自分又は家族の持ち家（マンションなどの集合住宅）(N=232)	68.50%	19.00%	3.00%	0.90%	4.30%	0.90%	3.40%
借家（一軒家）(N=15)	66.70%	13.30%	0.00%	6.70%	6.70%	0.00%	6.70%
借家（公営住宅やアパート・マンションなどの集合住宅）(N=346)	63.60%	11.00%	1.20%	2.60%	18.50%	0.30%	2.90%
その他(N=10)	70.00%	0.00%	0.00%	0.00%	20.00%	0.00%	10.00%
無回答(N=13)	38.50%	30.80%	0.00%	7.70%	7.70%	0.00%	15.40%

問 20 あなたは、日ごろの生活での困りごとを誰（どこ）に相談していますか、又は、誰（どこ）に相談することができますか。あてはまるものの全てに○をつけてください。

日常生活での相談先については、「家族・親戚」が79.2%と最も高く、次いで「友人」が46.2%、「学校や職場の先生・知人」が15.6%となっている。



また、日常生活での相談先を男女別にみると、「友人」が男性で32%、女性で56.9%と、女性が大幅に高い割合を示している。さらに年代別にみると、10 歳代～30 歳代で「友人」が6割を超え非常に高い。60 歳代以上では、「役所などの公的相談窓口」が他の年代と比較し高い割合となっている。

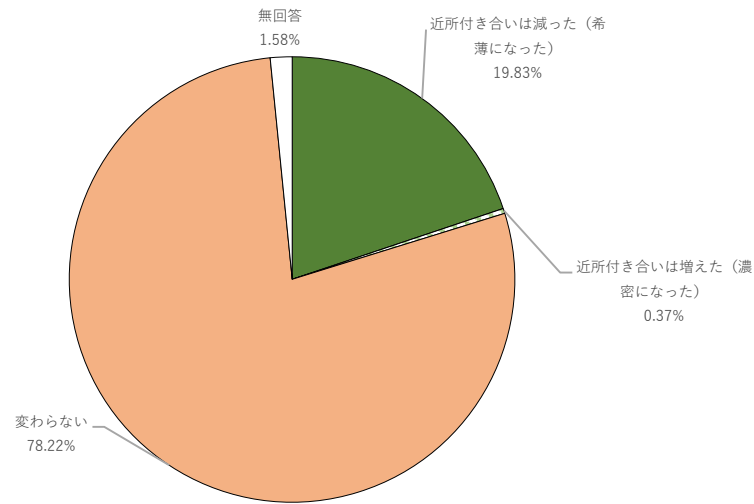
		家族・親戚	友人	学校や職場の先生・知人	近所の人	町内会関係者	民生委員・児童委員	福祉のまち推進センター	民間事業者	ボランティア・NPO法人などの民間団体	社会福祉協議会	役所などの公的相談窓口	相談できる相手はいない	自分の困りごとを他人に相談しない	その他	無回答
対象者全体(N=427)		79.20%	46.20%	15.60%	5.90%	3.60%	0.90%	0.30%	1.50%	1.10%	1.20%	10.10%	4.20%	7.30%	2.60%	1.30%
性別	男性(N=453)	72.80%	32.00%	14.60%	5.70%	6.20%	1.30%	0.40%	1.30%	2.00%	2.20%	13.00%	6.00%	10.80%	3.10%	0.90%
	女性(N=613)	84.20%	56.90%	16.20%	6.20%	1.80%	0.70%	0.20%	1.50%	0.50%	0.50%	8.20%	2.80%	4.60%	2.30%	1.30%
	その他(N=1)	100.00%	100.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	無回答(N=12)	66.70%	33.30%	16.70%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	8.30%	16.70%	0.00%	16.70%
年代	16～19歳(N=11)	78.60%	60.70%	39.30%	3.60%	3.60%	3.60%	0.00%	3.60%	0.00%	0.00%	3.60%	3.60%	7.10%	3.60%	3.60%
	20～29歳(N=10)	84.50%	67.60%	29.60%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.40%	0.00%	0.00%	4.20%	5.60%	1.40%	0.00%
	30～39歳(N=24)	87.00%	66.10%	35.70%	3.50%	0.00%	0.00%	0.00%	1.70%	0.90%	0.00%	6.10%	2.60%	4.30%	1.70%	0.00%
	40～49歳(N=53)	88.80%	52.60%	32.90%	6.60%	2.60%	0.70%	0.00%	0.00%	0.70%	0.70%	7.20%	1.30%	3.90%	2.60%	0.70%
	50～59歳(N=71)	79.10%	45.40%	15.80%	3.60%	0.50%	0.00%	0.00%	2.00%	0.50%	1.00%	6.10%	5.60%	7.10%	3.10%	0.50%
	60～64歳(N=54)	76.70%	44.70%	5.80%	5.80%	1.90%	1.90%	0.00%	3.90%	2.90%	1.00%	19.40%	4.90%	5.80%	1.90%	1.00%
	65～74歳(N=118)	77.70%	37.60%	2.10%	7.00%	7.00%	0.40%	0.80%	0.80%	1.70%	1.70%	12.80%	4.50%	9.50%	2.50%	1.20%
	75歳以上(N=85)	67.70%	29.80%	0.00%	11.80%	8.70%	3.10%	0.60%	1.20%	0.60%	3.10%	16.80%	5.00%	10.60%	3.70%	3.10%
	無回答(N=1)	63.60%	36.40%	27.30%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	9.10%	0.00%	0.00%	0.00%	9.10%	18.20%	0.00%	18.20%

また、家族形態別にみると全形態で「家族・親戚」が6割以上と高く、次いで「友人」が高い。なお、「一人暮らし」では、「相談できる相手はいない」が他の年代と比較し若干高くなっている。

	家族・親戚	友人	学校や職場の先生・知人	近所の人	町内会関係者	民生委員・児童委員	福祉のまち推進センター	民間事業者	ボランティア・NPO法人などの民間団体	社会福祉協議会	役所などの公的相談窓口	相談できる相手はいない	自分の困りごとを他人に相談しない	その他	無回答
一人暮らし	63.80%	50.00%	16.10%	4.50%	0.90%	1.80%	0.00%	1.80%	1.30%	0.90%	8.90%	9.40%	7.60%	3.60%	0.90%
夫婦だけの二世帯	79.40%	40.10%	8.90%	8.10%	5.40%	1.10%	0.50%	1.60%	1.10%	1.60%	11.10%	3.80%	9.50%	2.70%	1.40%
二世帯世帯（親と子）	87.40%	49.70%	21.20%	4.50%	3.00%	0.30%	0.00%	1.50%	1.00%	1.00%	9.80%	2.00%	4.50%	1.50%	0.80%
三世帯世帯（親・子・孫）	85.40%	56.10%	19.50%	12.20%	12.20%	0.00%	2.40%	0.00%	2.40%	2.40%	7.30%	0.00%	7.30%	0.00%	2.40%
その他	83.30%	43.30%	13.30%	0.00%	0.00%	3.30%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	13.30%	3.30%	6.70%	10.00%	3.30%
無回答	68.40%	31.60%	15.80%	5.30%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	10.50%	5.30%	21.10%	5.30%	10.50%

問 21 コロナ禍でご近所との付き合いに変化はありましたか。

コロナ禍の影響については、「変わらない」が78.22%と高く、「近所付き合いは減った（希薄になった）」は19.83%の割合だった。



また、男女別にみると「近所付き合いは減った（希薄になった）」は、女性が22%と、男性の16.6%を上回った。そして年代別にみると、40歳代、50歳代と65歳以上の年代で20%を超えた割合だった。



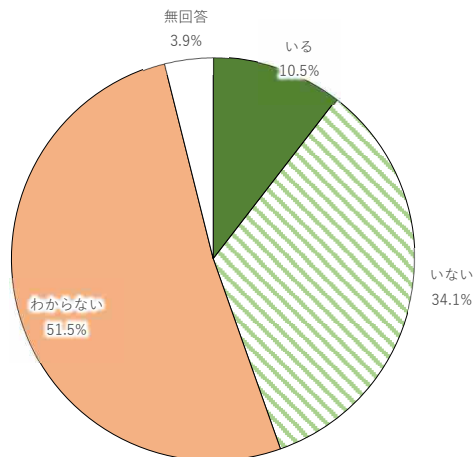
Ⅳ 住民による支え合い活動について

近所に手助けが必要な方がいるかの認知度

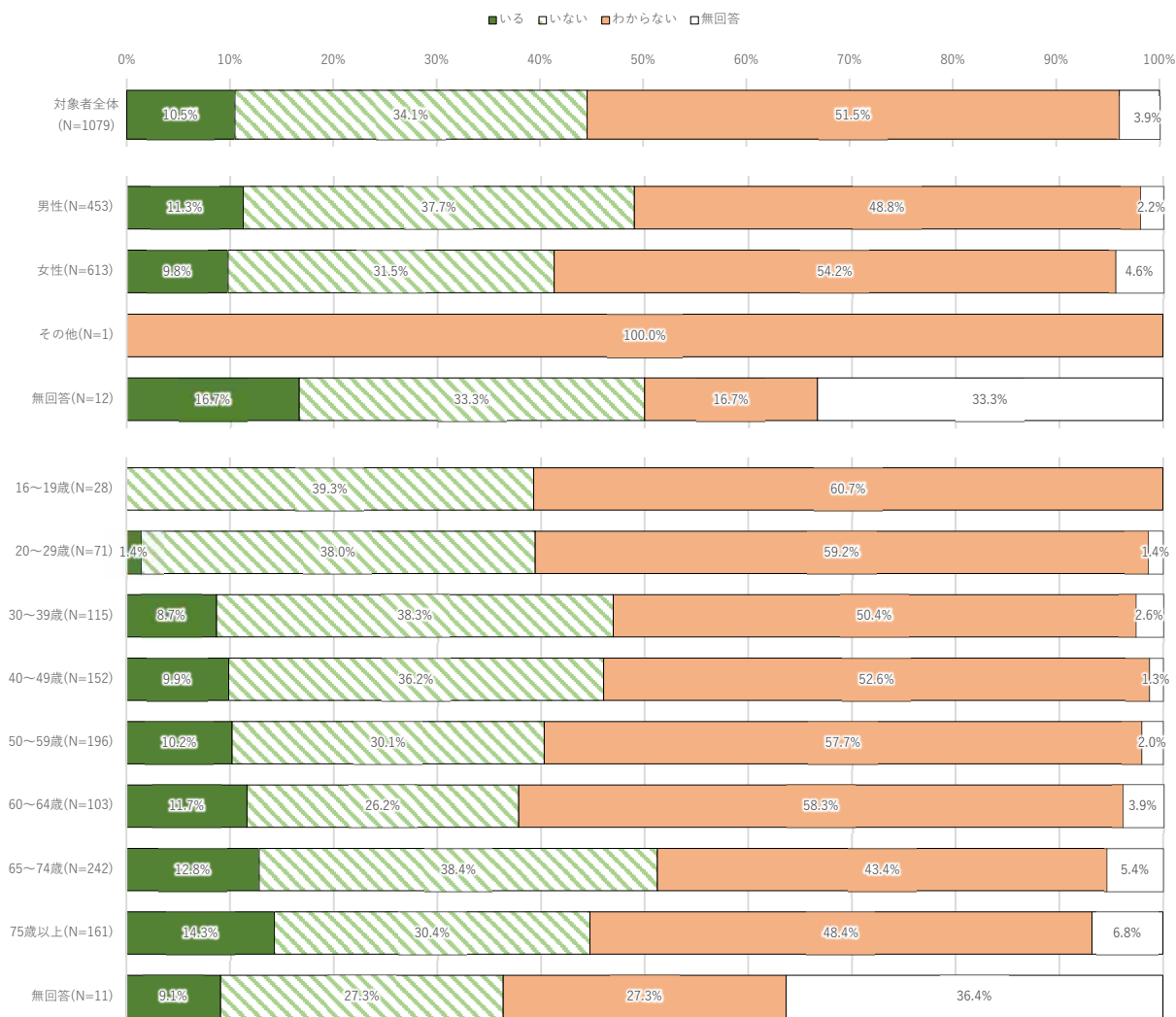
問 22 あなたのご近所で、日常生活に手助けが必要な方はいますか。 あてはまるもの 1

つに○をつけてください。

近所に手助けが必要な方がいるかの認知度については、「わからない」が51.5%と最も高く、次いで「いない」が34.1%、「いる」が10.5%となっている。



また、近所に手助けが必要な方がいるかの認知度を男女別にみると、男女共に「わからない」が5割前後の割合になっており、次いで「いない」が3割を超えている。さらに年代別にみると、年代が上がるにつれ「いる」の割合が段階的に高くなっている。

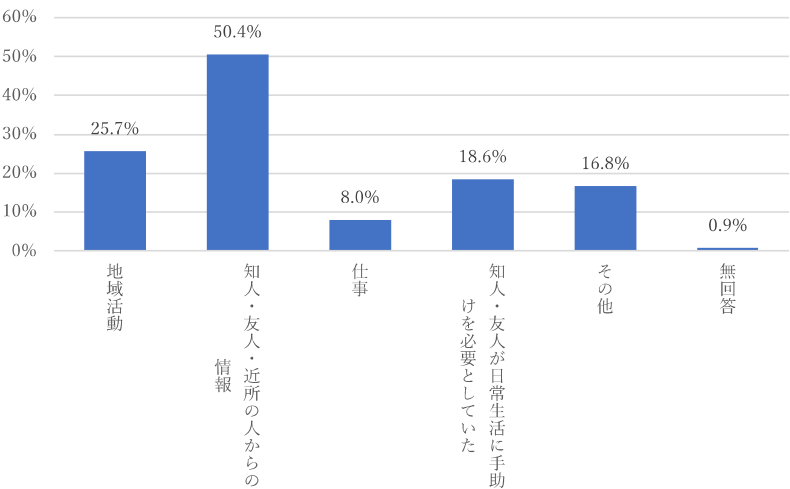


近所に手助けが必要な方がいるかを知ったきっかけ

問 23 日常生活に手助けが必要な方を知ったのはどのような場面ですか。 あてはまるもの全てに○をつけてください。

<問 22 で「いる」と答えた方が対象>

近所に手助けが必要な方がいるか、を知ったきっかけについては、「知人・友人・近所の人からの情報」の割合が 50.4%と最も高くなった。次いで「地域活動」が 25.7%、「知人・友人が日常生活に手助けを必要としていた」18.6%の順となった。

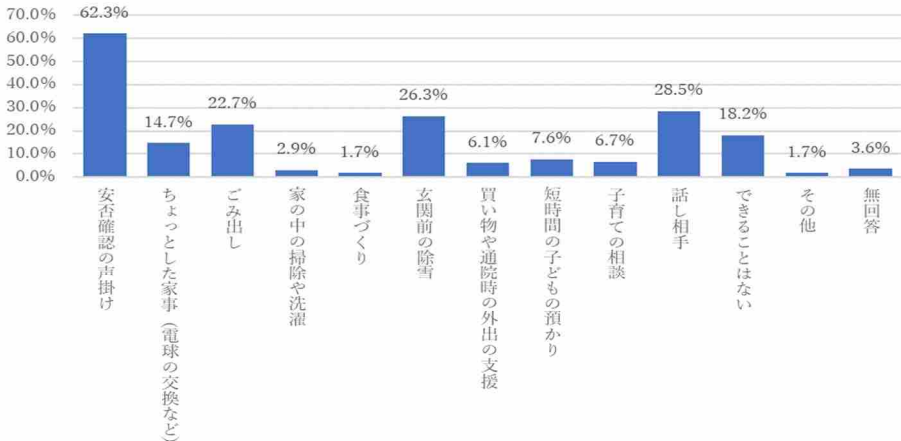


		安否確認の声掛け	ちやうどとした家事（電球の交換など）	ごみ出し	家の中の掃除や洗濯	食事づくり	玄関前の除雪	買い物や通院時の外出の支援	短時間の子ども預かり	子育ての相談	話し相手	できることはない	その他	無回答
対象者全体(N=924)		62.30%	14.70%	22.70%	2.90%	1.70%	26.30%	6.10%	7.60%	6.70%	28.50%	18.20%	1.70%	3.60%
性別	男性(N=392)	56.60%	16.80%	20.20%	2.30%	1.50%	32.70%	5.60%	4.60%	2.00%	21.70%	20.90%	1.30%	3.30%
	女性(N=525)	67.00%	13.10%	24.20%	3.20%	1.90%	21.30%	6.30%	9.50%	10.30%	33.30%	16.20%	2.10%	3.80%
	その他(N=1)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%
	無回答(N=6)	33.30%	16.70%	66.70%	16.70%	0.00%	50.00%	16.70%	33.30%	0.00%	50.00%	0.00%	0.00%	0.00%
年代	16～19歳(N=28)	53.60%	21.40%	32.10%	10.70%	10.70%	46.40%	10.70%	7.10%	3.60%	28.60%	17.90%	3.60%	0.00%
	20～29歳(N=69)	56.50%	17.40%	21.70%	5.80%	1.40%	42.00%	14.50%	11.60%	5.80%	46.40%	14.50%	1.40%	1.40%
	30～39歳(N=102)	68.60%	16.70%	12.70%	0.00%	1.00%	32.40%	2.00%	10.80%	11.80%	37.30%	19.60%	0.00%	0.00%
	40～49歳(N=135)	66.70%	17.80%	18.50%	1.50%	0.00%	29.60%	4.40%	5.90%	9.60%	28.90%	18.50%	0.70%	1.50%
	50～59歳(N=172)	62.20%	15.70%	22.10%	2.30%	2.90%	20.90%	7.00%	7.60%	9.30%	24.40%	20.30%	2.90%	4.10%
	60～64歳(N=87)	60.90%	12.60%	21.80%	2.30%	1.10%	13.80%	3.40%	5.70%	8.00%	21.80%	21.80%	3.40%	3.40%
	65～74歳(N=198)	64.10%	15.20%	27.30%	5.10%	2.50%	26.30%	7.10%	8.60%	3.00%	25.80%	13.60%	2.00%	4.50%
	75歳以上(N=127)	57.50%	6.30%	26.00%	0.80%	0.00%	20.50%	3.90%	3.10%	2.40%	25.20%	20.50%	0.80%	8.70%
	無回答(N=6)	33.30%	16.70%	66.70%	16.70%	0.00%	33.30%	16.70%	33.30%	0.00%	33.30%	16.70%	0.00%	0.00%

近所の手助けが必要な方へできること

問 24 あなたのご近所で日常生活に手助けが必要な方がいる場合、あなたはどのようなことができますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。1～11の項目以外に、手助けできることがある場合には、「12 その他」の（ ）内に具体的に記入してください。

<問 22 で「いる」に回答のあった 924 件を対象>
近所の方に手助けしてほしいことについては、「安否確認の声掛け」が 62.3%と最も高く、次いで「話し相手」28.5%、「玄関前の除雪」26.3%、「ごみ出し」22.7%の順となっている。



また、近所の方に手助けしてほしいことを男女別にみると、「安否確認の声掛け」が男性 56.6%、女性 67%で、「ごみ出し」が男性 20.2%、女性 24.2%と女性が高い割合となっている。「玄関前の除雪」が男性 32.7%、女性 21.3%で、「ちょっとした家事 (電球の交換など)」は男性 16.8%、女性 13.1%と男性が高い割合となっている。さらに年代別でみると、16～20 歳代では「玄関前の除雪」が 4 割を超え、他の年代と比較し高い割合となっている。

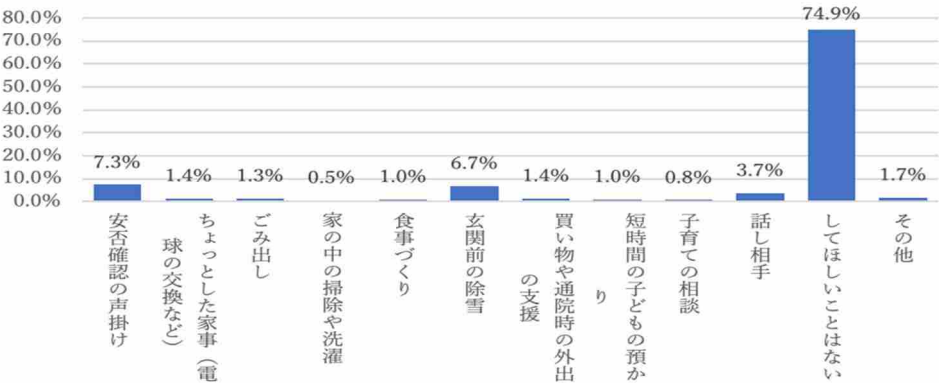
		安 否 確 認 の 声 掛 け	ち よ っ と し た 家 事 へ 電 球 の 交 換 な ど	ご み 出 し	家 の 中 の 掃 除 や 洗 濯	食 事 づ く り	玄 関 前 の 除 雪	買 い 物 や 通 院 時 の 外 出 の 支 援	短 時 間 の 子 ど も の 預 か り	子 育 て の 相 談	話 し 相 手	で き る こ と は な い	そ の 他	無 回 答
対象者全体 (N=924)		62.30%	14.70%	22.70%	2.90%	1.70%	26.30%	6.10%	7.60%	6.70%	28.50%	18.20%	1.70%	3.60%
性 別	男性 (N=392)	56.60%	16.80%	20.20%	2.30%	1.50%	32.70%	5.60%	4.60%	2.00%	21.70%	20.90%	1.30%	3.30%
	女性 (N=525)	67.00%	13.10%	24.20%	3.20%	1.90%	21.30%	6.30%	9.50%	10.30%	33.30%	16.20%	2.10%	3.80%
	その他 (N=1)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%
	無回答 (N=6)	33.30%	16.70%	66.70%	16.70%	0.00%	50.00%	16.70%	33.30%	0.00%	50.00%	0.00%	0.00%	0.00%
年 代	16～19歳 (N=28)	53.60%	21.40%	32.10%	10.70%	10.70%	46.40%	10.70%	7.10%	3.60%	28.60%	17.90%	3.60%	0.00%
	20～29歳 (N=69)	56.50%	17.40%	21.70%	5.80%	1.40%	42.00%	14.50%	11.60%	5.80%	46.40%	14.50%	1.40%	1.40%
	30～39歳 (N=102)	68.60%	16.70%	12.70%	0.00%	1.00%	32.40%	2.00%	10.80%	11.80%	37.30%	19.60%	0.00%	0.00%
	40～49歳 (N=135)	66.70%	17.80%	18.50%	1.50%	0.00%	29.60%	4.40%	5.90%	9.60%	28.90%	18.50%	0.70%	1.50%
	50～59歳 (N=172)	62.20%	15.70%	22.10%	2.30%	2.90%	20.90%	7.00%	7.60%	9.30%	24.40%	20.30%	2.90%	4.10%
	60～64歳 (N=87)	60.90%	12.60%	21.80%	2.30%	1.10%	13.80%	3.40%	5.70%	8.00%	21.80%	21.80%	3.40%	3.40%
	65～74歳 (N=198)	64.10%	15.20%	27.30%	5.10%	2.50%	26.30%	7.10%	8.60%	3.00%	25.80%	13.60%	2.00%	4.50%
	75歳以上 (N=127)	57.50%	6.30%	26.00%	0.80%	0.00%	20.50%	3.90%	3.10%	2.40%	25.20%	20.50%	0.80%	8.70%
	無回答 (N=6)	33.30%	16.70%	66.70%	16.70%	0.00%	33.30%	16.70%	33.30%	0.00%	33.30%	16.70%	0.00%	0.00%

近所の方に手助けしてほしいこと

問 25 あなたは、日常生活の中で近所の人に手助けしてほしいことはありますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。 1～11 の項目以外に、手助けしてほしいことがある場合には、「12 その他」の（ ）内に具体的に記入してください。

<問 22 で回答のあった 1037 件を対象>

近所の方に手助けしてほしいことについては、「してほしいことはない」が 74.9%と抜きんで高い。次が「安否確認の声掛け」が 7.3%、「玄関前の除雪」の 6.7%となっている。

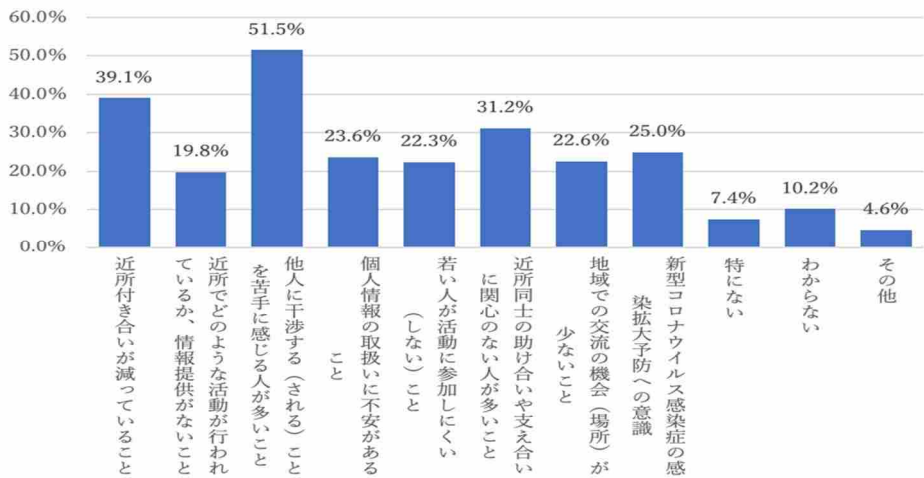


また、近所の方に手助けしてほしいこと、を男女別にみると、男性は「してほしいことがない」「安否確認の声掛け」「玄関前の除雪」で 9 割を占めるが、女性は少ないながらも他の回答も満遍なくあった。年代別でみると、16～19 歳代、30 歳代、50 歳代で「してほしいことはない」が 8 割を超えている。そして、75 歳以上で「安否確認の声掛け」が 12.7% と他の年代よりも高かった。

	安否確認の声掛け	ちょっとした家事（電球の交換など）	ごみ出し	家の中の掃除や洗濯	食事づくり	玄関前の除雪	買い物や通院時の外出の支援	短時間の子ども預かり	子育ての相談	話し相手	してほしいことはない	その他
対象者全体(N=1037)	7.30%	1.40%	1.30%	0.50%	1.00%	6.70%	1.40%	1.00%	0.80%	3.70%	74.90%	1.70%
性別												
男性(N=443)	7.70%	0.00%	0.90%	0.70%	0.90%	4.70%	0.90%	1.10%	0.20%	2.90%	78.30%	1.10%
女性(N=585)	6.80%	2.40%	1.50%	0.30%	1.00%	8.20%	1.70%	0.90%	1.20%	4.30%	72.50%	2.20%
その他(N=1)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%
無回答(N=8)	25.00%	12.50%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	62.50%	0.00%
年代												
16～19歳(N=28)	3.60%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	7.10%	85.70%	0.00%
20～29歳(N=70)	5.70%	0.00%	2.90%	0.00%	1.40%	7.10%	0.00%	0.00%	0.00%	2.90%	74.30%	1.40%
30～39歳(N=112)	1.80%	0.00%	0.90%	0.90%	1.80%	7.10%	1.80%	3.60%	5.40%	3.60%	81.30%	0.90%
40～49歳(N=150)	6.00%	1.30%	0.00%	0.70%	1.30%	8.00%	0.70%	2.70%	0.70%	4.70%	78.00%	0.70%
50～59歳(N=192)	6.30%	1.00%	0.50%	1.00%	1.00%	6.80%	1.60%	1.00%	0.50%	2.10%	81.80%	1.60%
60～64歳(N=99)	7.10%	1.00%	1.00%	1.00%	0.00%	5.10%	2.00%	0.00%	0.00%	2.00%	75.80%	5.10%
65～74歳(N=229)	8.70%	1.70%	2.60%	0.00%	0.90%	7.40%	1.30%	0.00%	0.00%	1.70%	72.50%	1.70%
75歳以上(N=150)	12.70%	3.30%	1.30%	0.00%	0.70%	6.00%	2.00%	0.00%	0.00%	8.70%	60.70%	2.00%
無回答(N=7)	28.60%	14.30%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	57.10%	0.00%

問 26 ご近所同士がお互いに力を合わせて、住みよい地域社会を実現していくうえで、
さまたげとなることは何だと思えますか。 あてはまるもの全てに○をつけて くだ
さい。

住みよい地域づくりのさまたげと感ずることについては、「他人に干渉する（される）ことを苦手に感ずる人が多いこと」が 51.5%と 5 割を超えて高く、次いで「近所付き合いが減っていること」が 39.1%、「近所同士の助け合いや支え合いに関心のない人が多いこと」が 31.2%となっている。



また、住みよい地域づくりのさまたげと感ずることを男女別にみると「近所付き合いが減っていること」が男性 39.5%、女性 38.6%と男女差はみられない。さらに年代別にみると、各年代共に「新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防への意識」が 2 割～3 割を占めた。特に 50 歳代は 3 割を超える割合だった。また 30 歳代～74 歳で「他人に干渉する（される）ことを苦手に感ずる人が多いこと」が 5 割を超えた。

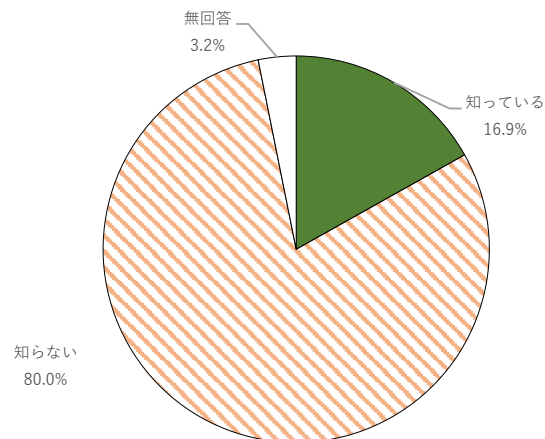
		近所付き合いが減っていること	近所でのような活動が行われているか、情報提供がないこと	他人に干渉する（される）こと	個人情報の取扱に不安があること	若い人が活動に参加しにくい（しない）こと	近所同士の助け合いや支え合いに関心のない人が多いこと	地域での交流の機会（場所）が少ないこと	新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防への意識	特になし	わからない	その他
対象者全体(N=1037)		39.10%	19.80%	51.50%	23.60%	22.30%	31.20%	22.60%	25.00%	7.40%	10.20%	4.60%
性別	男性(N=443)	39.50%	19.00%	47.40%	19.40%	23.30%	34.10%	21.90%	20.30%	8.60%	10.40%	4.70%
	女性(N=585)	38.60%	20.50%	54.90%	26.80%	21.50%	29.20%	22.90%	28.40%	6.50%	10.30%	4.60%
	その他(N=1)	0.00%	0.00%	100.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	無回答(N=8)	50.00%	12.50%	25.00%	12.50%	25.00%	25.00%	37.50%	37.50%	12.50%	0.00%	0.00%
年代	16～19歳(N=28)	32.10%	14.30%	28.60%	10.70%	32.10%	21.40%	32.10%	25.00%	3.60%	25.00%	0.00%
	20～29歳(N=70)	32.90%	22.90%	48.60%	28.60%	31.40%	17.10%	20.00%	24.30%	4.30%	10.00%	5.70%
	30～39歳(N=112)	37.50%	22.30%	63.40%	24.10%	31.30%	31.30%	30.40%	28.60%	3.60%	8.00%	7.10%
	40～49歳(N=150)	44.70%	25.30%	55.30%	22.70%	26.70%	37.30%	18.70%	20.70%	4.70%	10.70%	6.70%
	50～59歳(N=192)	46.90%	21.40%	55.70%	30.20%	19.80%	37.50%	19.30%	31.30%	3.60%	10.40%	7.30%
	60～64歳(N=99)	42.40%	19.20%	50.50%	22.20%	18.20%	38.40%	23.20%	28.30%	12.10%	5.10%	5.10%
	65～74歳(N=229)	35.80%	15.70%	51.10%	27.10%	21.00%	29.70%	22.30%	22.70%	9.60%	8.70%	2.20%
	75歳以上(N=150)	31.30%	16.70%	40.70%	11.30%	12.70%	23.30%	24.00%	19.30%	14.00%	14.70%	1.30%
	無回答(N=7)	42.90%	14.30%	42.90%	28.60%	28.60%	28.60%	28.60%	42.90%	0.00%	0.00%	0.00%

V 札幌市の地域福祉施策について

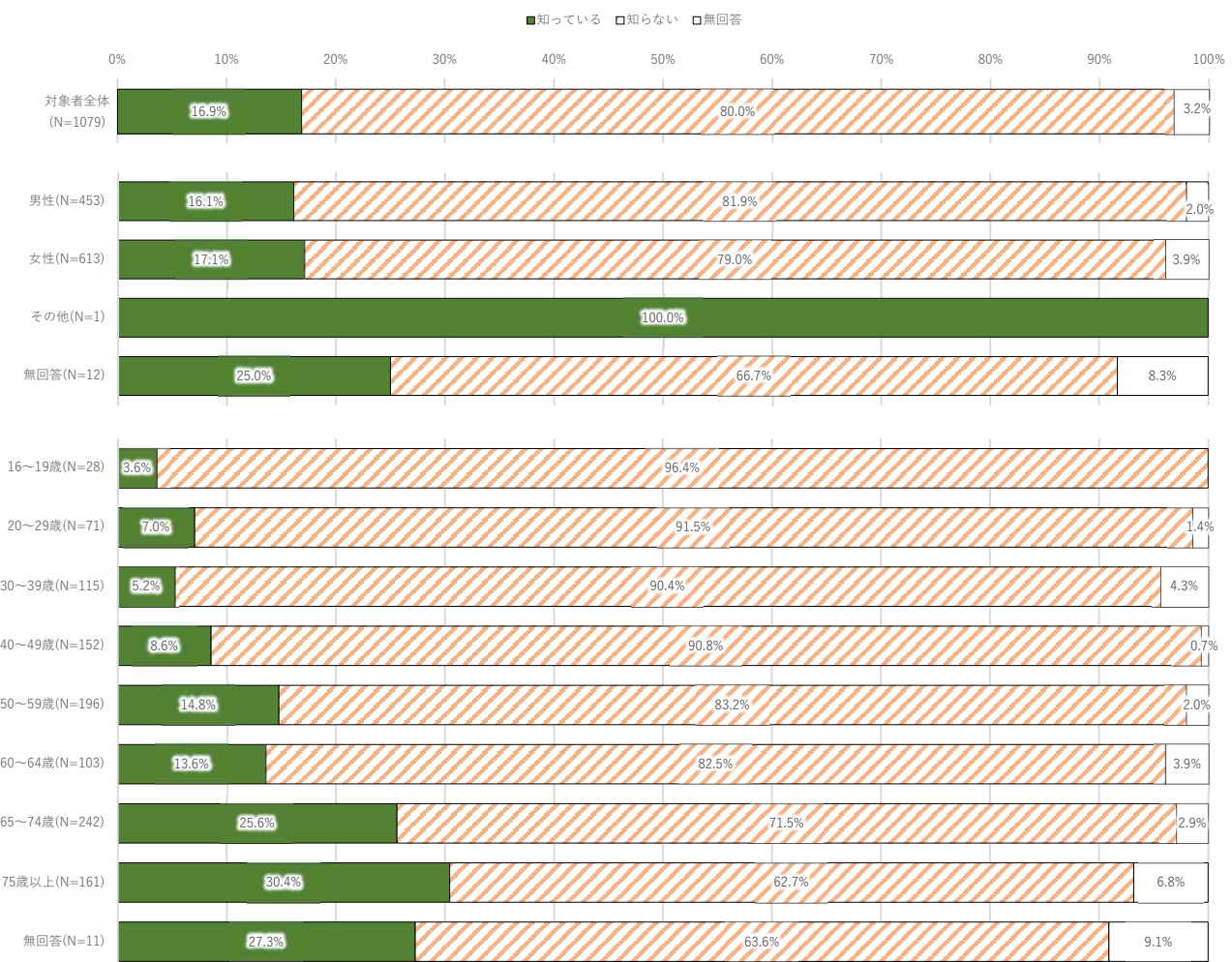
福祉のまち推進センターの認知度

問 27 あなたは、福祉のまち推進センター（通称：福まち）を知っていますか。 あては
まるもの1つに○をつけてください。

福祉のまち推進センターの認知度については、「知らない」が80%、「知っている」が16.9%となった。



また、福祉のまち推進センターの認知度を男女別にみると、男女共に「知らない」が7割を超えて高く、「知っている」が2割に届いておらず、さらに年代別にみると、全年代で「知らない」の割合が高い。一方、年代が高くなるにつれて「知っている」の割合が高く、特に75歳以上が30.4%と最も高い。



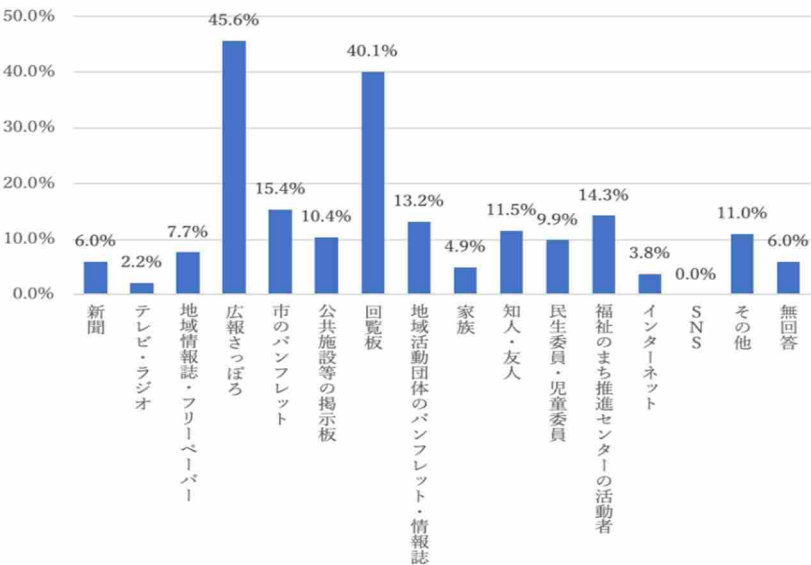
福祉のまち推進センターを知った手段

問 28 あなたは、福祉のまち推進センターを何で知りましたか。 あてはまるもの全てに

○をつけてください。

<問 27 で「1 知っている」と回答した方が対象>

「知っている」と回答した方の福祉のまち推進センターを知った手段については、「広報さっぽろ」が 45.6%と最も高く、次いで「回覧板」が 40.1%となっている。



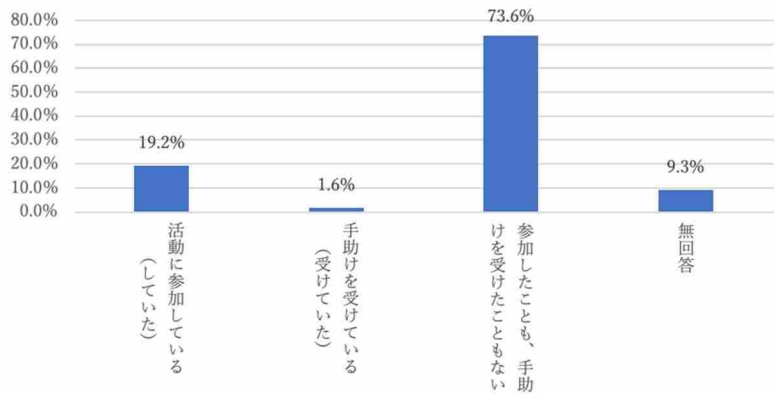
また、福祉のまち推進センターを知った手段を男女別にみると、女性は「広報さっぽろ」が 46.7%と最も高い。男性は「回覧板」45.2%と高い。さらに年代別にみると、30～64 歳までの年代で「広報さっぽろ」が高く、65～75 歳以上の年代になると、「回覧板」の割合が高い。

	新聞	テレビ・ラジオ	地域情報誌・フリーペーパー	広報さっぽろ	市のパンフレット	公共施設等の掲示板	回覧板	地域活動団体のパンフレット・情報誌	家族	知人・友人	民生委員・児童委員	福祉のまち推進センターの活動者	インターネット	SNS	その他	無回答
対象者全体(N=182)	6.00%	2.20%	7.70%	45.60%	15.40%	10.40%	40.10%	13.20%	4.90%	11.50%	9.90%	14.30%	3.80%	0.00%	11.00%	6.00%
性別																
男性(N=73)	8.20%	5.50%	6.80%	41.10%	21.90%	15.10%	45.20%	15.10%	5.50%	11.00%	5.50%	12.30%	8.20%	0.00%	16.40%	2.70%
女性(N=105)	4.80%	0.00%	8.60%	46.70%	9.50%	5.70%	35.20%	12.40%	4.80%	12.40%	12.40%	16.20%	1.00%	0.00%	7.60%	8.60%
その他(N=1)	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	100.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
無回答(N=3)	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	33.30%	33.30%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	33.30%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
年代																
16～19歳(N=1)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
20～29歳(N=5)	0.00%	0.00%	0.00%	20.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	20.00%	20.00%	0.00%	0.00%	20.00%	0.00%	40.00%	0.00%
30～39歳(N=6)	0.00%	0.00%	16.70%	66.70%	0.00%	0.00%	16.70%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	66.70%	0.00%
40～49歳(N=13)	0.00%	0.00%	7.70%	61.50%	23.10%	15.40%	30.80%	0.00%	23.10%	7.70%	7.70%	23.10%	0.00%	0.00%	15.40%	0.00%
50～59歳(N=29)	6.90%	0.00%	6.90%	41.40%	6.90%	10.30%	27.60%	10.30%	6.90%	6.90%	3.40%	13.80%	3.40%	0.00%	13.80%	3.40%
60～64歳(N=14)	0.00%	0.00%	0.00%	57.10%	7.10%	7.10%	21.40%	7.10%	7.10%	21.40%	0.00%	7.10%	0.00%	0.00%	14.30%	7.10%
65～74歳(N=62)	6.50%	3.20%	3.20%	40.30%	14.50%	11.30%	46.80%	12.90%	1.60%	12.90%	16.10%	14.50%	6.50%	0.00%	9.70%	9.70%
75歳以上(N=49)	10.20%	4.10%	16.30%	44.90%	22.40%	10.20%	51.00%	24.50%	2.00%	12.20%	10.20%	16.30%	2.00%	0.00%	0.00%	6.10%
無回答(N=3)	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	66.70%	33.30%	66.70%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

問 29 あなたは、福祉のまち推進センターの活動に参加したり、手助けを受けたことはありますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

<問 27 で「1 知っている」と回答した方が対象>

福祉のまち推進センターとの関わりをみると、「参加したことも、手助けを受けたこともない」が73.6%、「活動に参加している（していた）」が19.2%、「手助けを受けている（受けていた）」が1.6%となった。



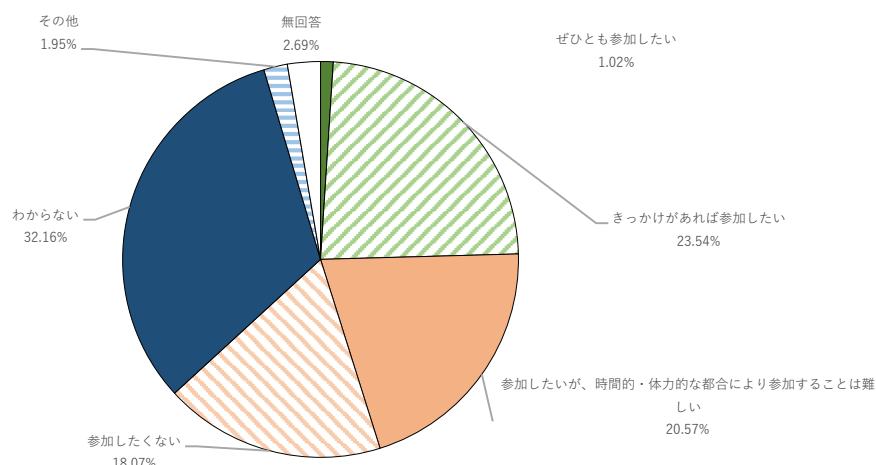
男女別にみると、「活動に参加している（していた）」が男性15.1%、女性21.9%。「手助けを受けている（受けていた）」が男性2.7%女性1%となった。さらに年代別で見ると、40歳代全ての回答が「参加したことも、手助けを受けたこともない」となった。

		活動に参加している (していた)	手助けを受けている (受けていた)	参加したことも、手助けを受けたこともない	無回答
対象者全体(N=182)		19.20%	1.60%	73.60%	9.30%
性別	男性(N=73)	15.10%	2.70%	79.50%	4.10%
	女性(N=105)	21.90%	1.00%	69.50%	13.30%
	その他(N=1)	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%
	無回答(N=3)	33.30%	0.00%	66.70%	0.00%
年代	16～19歳(N=1)	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	20～29歳(N=5)	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%
	30～39歳(N=6)	33.30%	16.70%	50.00%	0.00%
	40～49歳(N=13)	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%
	50～59歳(N=29)	20.70%	0.00%	75.90%	6.90%
	60～64歳(N=14)	14.30%	0.00%	78.60%	14.30%
	65～74歳(N=62)	24.20%	1.60%	69.40%	9.70%
	75歳以上(N=49)	18.40%	2.00%	69.40%	14.30%
	無回答(N=3)	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%

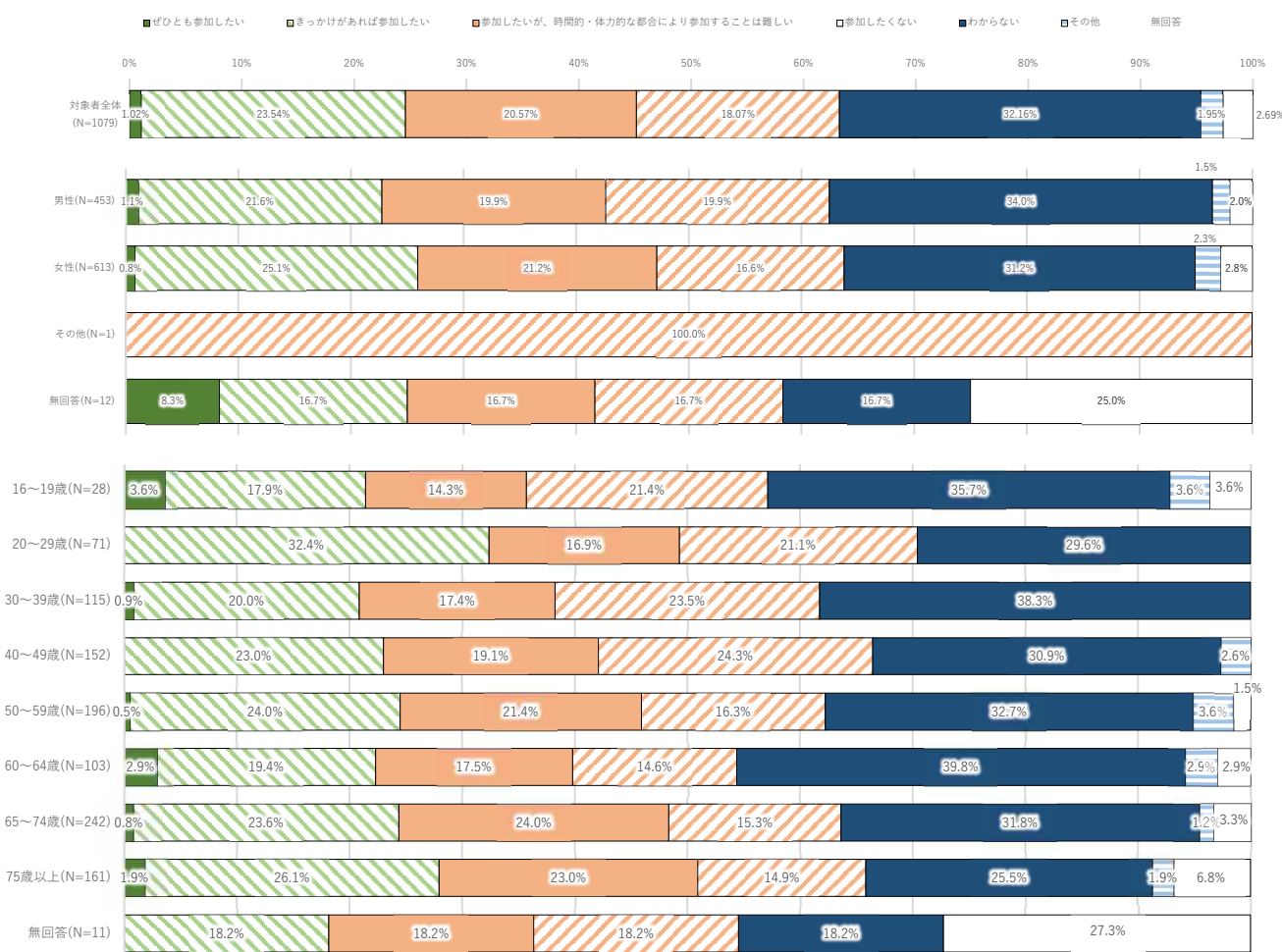
福祉のまち推進センターへの参加意向

問 30 あなたは、今後（現在参加している方は引き続き）、福祉のまち推進センターが行っている活動に参加したいですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

福祉のまち推進センターへの参加意向をみると、「きっかけがあれば参加したい」が23.54%、「参加したいが、時間的・体力的な都合により参加することは難しい」が20.57%、「参加したくない」が18.07%となった。

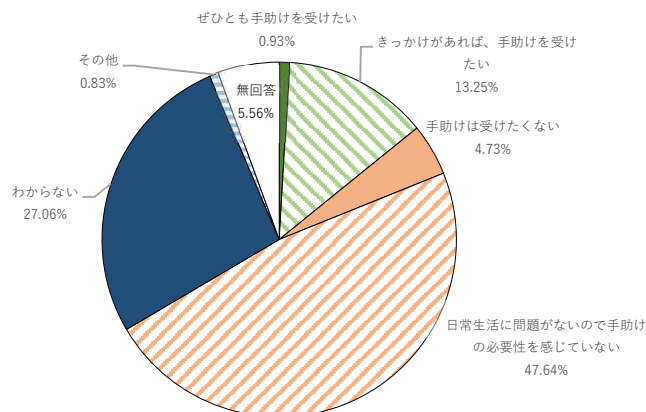


また年代別で見ると、20歳代で「きっかけがあれば参加したい」が32.4%と他の年代に比べ高かった。「参加したくない」の回答をみると16～40歳代が2割を超えた。

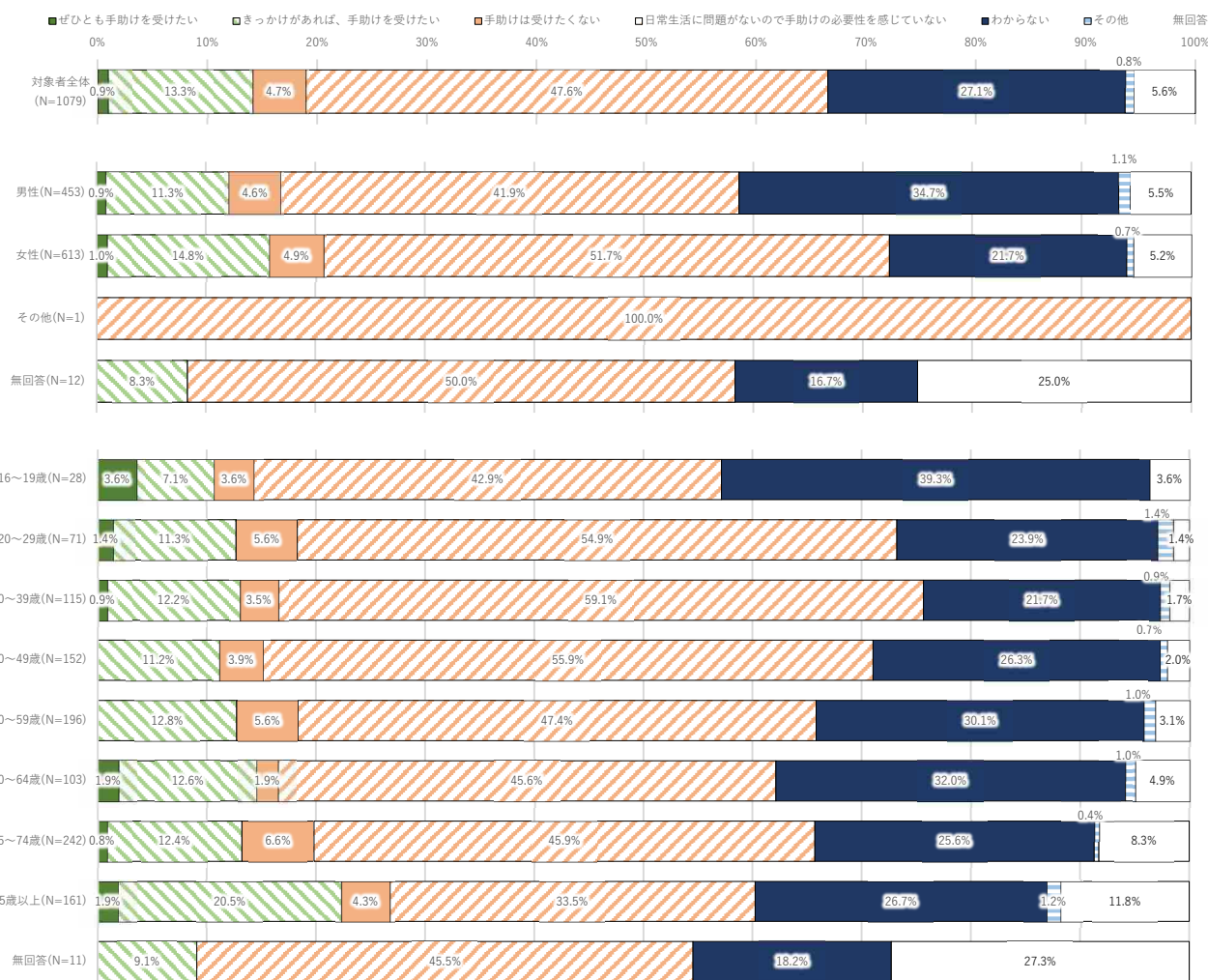


問 31 あなたは、今後（現在支援を受けている方は引き続き）、福祉のまち推進センターによる手助けを受けたいですか。 あてはまるもの1つに○をつけてください。

福祉のまち推進センターによる手助けの享受については、「日常生活に問題がないので手助けの必要性を感じない」が47.64%と最も高く、次いで「わからない」が27.06%、「きっかけがあれば、手助けを受けたい」が13.25%となった。

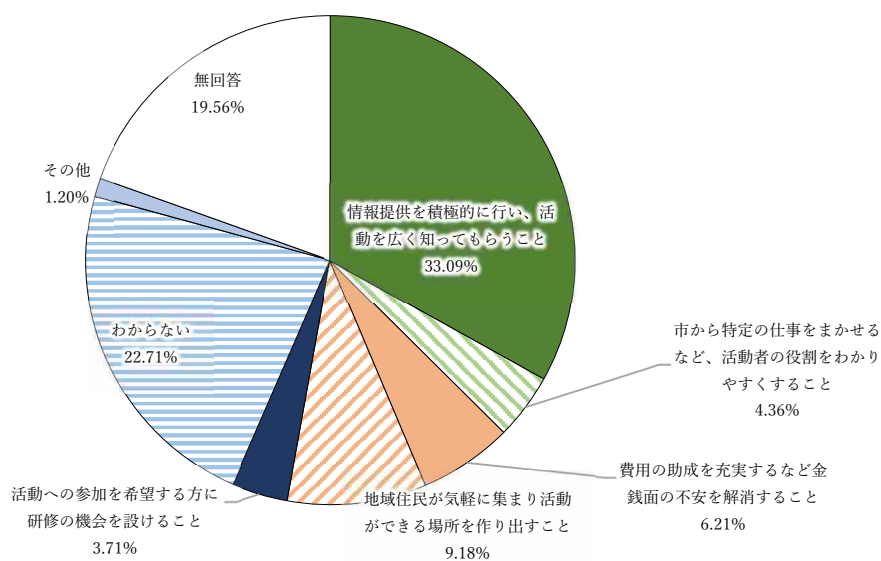


また男女別でみると、「日常生活に問題がないので手助けの必要性を感じていない」で女性が51.7%と著しく高い割合を示した。さらに年代別でみると、「日常生活に問題がないので手助けの必要性を感じていない」は16～74歳までが4～5割を示し、75歳以上で「きっかけがあれば、手助けを受けたい」が20.5%と他の年代に比べ高い割合となった。10歳代では「わからない」が39.3%と他の年代と比べ高い割合を示した。

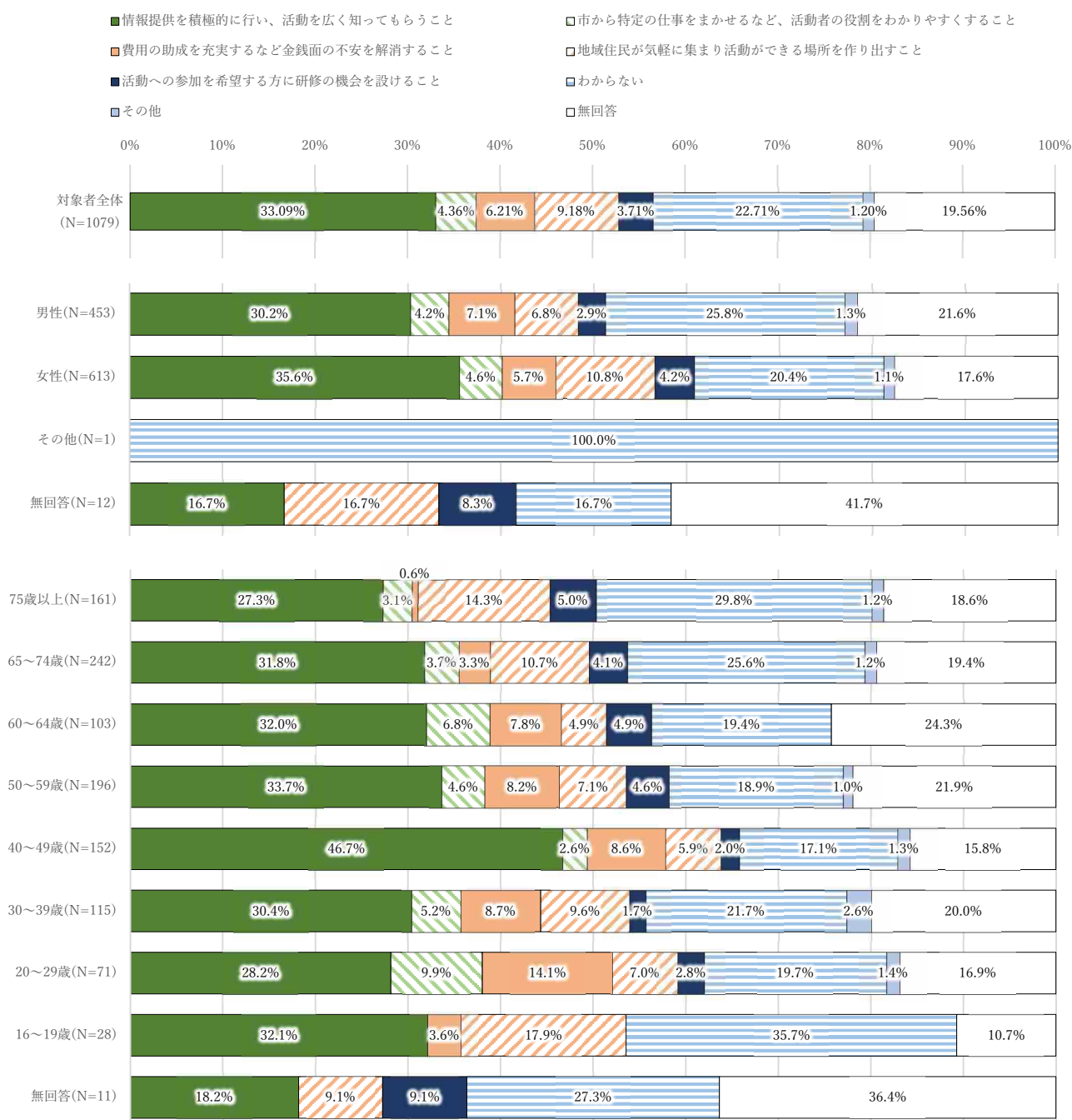


問 32 福祉のまち推進センターなどが行う活動に、より多くの方に参加していただくためには、どのような取組みを充実すべきだと思いますか。 あてはまるもの1つに○をつけてください。

福祉のまち推進センターにおける支え合い活動への参加促進策については、「情報提供を積極的に行い、活動を広く知ってもらうこと」が33.1%と最も高く、次いで「わからない」が22.6%となっている。



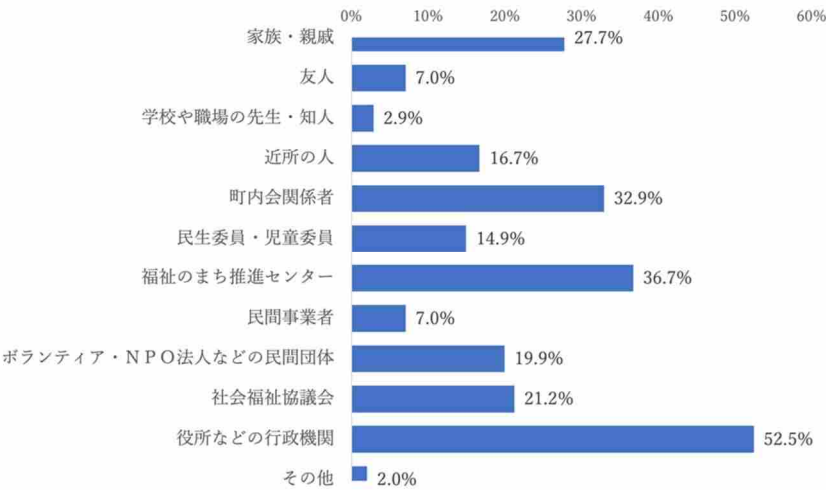
福祉のまち推進センターにおける支え合い活動への参加促進策を男女別にみると、男女共に「情報提供を積極的に行い、活動を広く知ってもらうこと」が3割を超えている。さらに年代別にみると、40歳代で「情報提供を積極的に行い、活動を広く知ってもらうこと」が46.7%の割合を示している。



地域での手助けや支え合いの中心となる担い手

問33 地域における手助けや支え合いは、誰が（どこが）中心となって行うべきだと思いますか。特に行うべきと考えるものを3つまで選んで○をつけてください。

地域での手助けや支え合いの中心となる担い手については、「役所などの行政機関」が52.5%と最も高く、次いで「福祉のまち推進センター」が36.7%、「町内会関係者」が32.9%となっている。

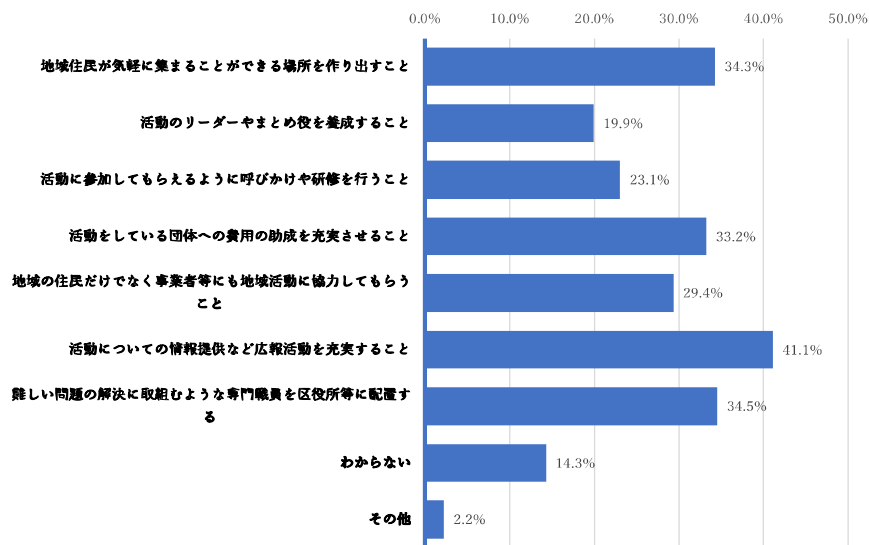


また、地域での手助けや支え合いの担い手を男女別にみると、「役所などの行政機関」が男性の方が女性よりも高い割合を示し、「福祉のまち推進センター」は女性の方が男性よりも高い割合を示した。さらに年代別にみると、20～64 歳で「役所などの行政機関」が他の年代よりも高い割合を示し、75 歳以上では「家族・親戚」が34.2%と他の年代と比較し高い割合となっている。

		家族・親戚	友人	学校や職場の先生・知人	近所の人	町内会関係者	民生委員・児童委員	福祉のまち推進センター	民間事業者	ボランティア・NPO法人などの民間団体	社会福祉協議会	役所などの行政機関	その他
対象者全体 (N=1079)		27.71%	7.04%	2.87%	16.68%	32.90%	14.92%	36.70%	7.04%	19.93%	21.22%	52.46%	2.04%
性別	性別非回答(N=)	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	30.8%	7.7%	38.5%	0.0%	0.0%	23.1%	53.8%	0.0%
	男性(N=453)	29.1%	7.7%	2.9%	17.7%	31.6%	14.8%	32.7%	7.3%	19.4%	24.7%	56.5%	1.1%
	女性(N=613)	27.1%	6.7%	2.9%	16.2%	33.9%	15.2%	39.6%	6.9%	20.7%	18.6%	49.3%	2.8%
年齢	無回答(N=12)	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	33.3%	8.3%	0.0%	25.0%	58.3%	0.0%
	16～19歳(N=)	17.9%	3.6%	7.1%	7.1%	35.7%	17.9%	32.1%	10.7%	28.6%	7.1%	42.9%	7.1%
	20～29歳(N=)	16.9%	4.2%	5.6%	12.7%	36.6%	14.1%	49.3%	9.9%	26.8%	21.1%	57.7%	1.4%
	30～39歳(N=)	30.4%	10.4%	4.3%	20.9%	32.2%	10.4%	32.2%	15.7%	20.9%	12.2%	54.8%	1.7%
	40～49歳(N=)	28.9%	9.9%	7.2%	15.1%	30.3%	14.5%	40.8%	5.9%	25.7%	15.1%	59.2%	2.0%
	50～59歳(N=)	24.5%	5.6%	2.0%	10.7%	31.1%	12.2%	37.2%	9.7%	18.9%	25.5%	55.1%	2.0%
	60～64歳(N=)	31.1%	4.9%	0.0%	19.4%	32.0%	15.5%	35.0%	4.9%	23.3%	22.3%	52.4%	5.8%
	65～74歳(N=)	27.7%	7.4%	1.7%	21.1%	33.9%	19.8%	35.1%	2.9%	20.2%	26.4%	47.9%	0.8%
	75歳以上(N=)	34.2%	6.8%	0.6%	18.6%	36.0%	14.9%	34.2%	4.3%	9.3%	21.7%	46.6%	1.2%

問 34 あなたの住む地域において日常生活に手助けを必要とする方を発見し、その方が抱える問題を解決するためには、どのような取組みが効果的だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「活動についての情報提供など広報活動を充実すること」への回答が41.1%と最も多く、次いで「難しい問題の解決に取組むような専門職員を区役所等に配置すること」が34.5%、「地域住民が気軽に集まることができる場所を作り出すこと」が34.3%となっている。



また次表に示すように、男女別(性別への設問の無回答は除く)で見た場合、男性は「活動のリーダーやまとめ役を養成すること」「活動に参加してもらえるように呼びかけや研修を行うこと」「活動をしている団体への費用の助成を充実させること」への割合が高い。年代別で比較してみると、40 歳代で「難しい問題の解決に取組むような専門職員を区役所等に配置すること」が44.7%と、他の年代と比較し高い割合を示していた。

		地域住民が気軽に集まることができる場所を作り出すこと	活動のリーダーやまとめ役を養成すること	活動に参加してもらるように呼びかけや研修を行うこと	活動をしている団体への費用の助成を充実させること	地域の住民だけでなく事業者等にも地域活動に協力してもらうこと	活動についての情報提供など広報活動を充実させること	難しい問題の解決に取組むような専門職員を区役所等に配置すること	わからない	その他
	全体回答	34.3%	19.9%	23.1%	33.2%	29.4%	41.1%	34.5%	14.3%	2.2%
性別	性別非回答	38.5%	23.1%	15.4%	30.8%	23.1%	23.1%	53.8%	7.7%	0.0%
	男性	29.6%	25.6%	23.4%	34.2%	27.2%	40.2%	31.6%	15.0%	2.2%
	女性	37.7%	15.7%	23.0%	32.6%	31.2%	42.3%	36.2%	13.9%	2.3%
	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
年齢別	無回答	25.0%	25.0%	16.7%	25.0%	25.0%	16.7%	66.7%	8.3%	0.0%
	16～19歳	42.9%	17.9%	7.1%	21.4%	32.1%	39.3%	25.0%	32.1%	0.0%
	20～29歳	32.4%	15.5%	21.1%	39.4%	35.2%	46.5%	26.8%	12.7%	4.2%
	30～39歳	40.0%	16.5%	20.9%	38.3%	32.2%	42.6%	30.4%	13.9%	3.5%
	40～49歳	37.5%	17.8%	23.0%	33.6%	38.2%	48.7%	44.7%	9.9%	3.3%
	50～59歳	33.7%	19.9%	23.0%	36.7%	35.7%	38.8%	32.7%	13.8%	2.0%
	60～64歳	28.2%	20.4%	14.6%	37.9%	31.1%	32.0%	42.7%	15.5%	2.9%
	65～69歳	32.2%	21.9%	28.1%	32.2%	22.7%	46.3%	32.6%	13.6%	1.7%
	70歳以上	34.8%	23.0%	26.7%	23.6%	17.4%	33.5%	30.4%	17.4%	0.6%

Ⅵ 地域活動と住民の支え合いに関する意見（自由記入）

問 35 地域活動と住民の支え合いについて、ご意見などがございましたら、ご自由にお書きください。

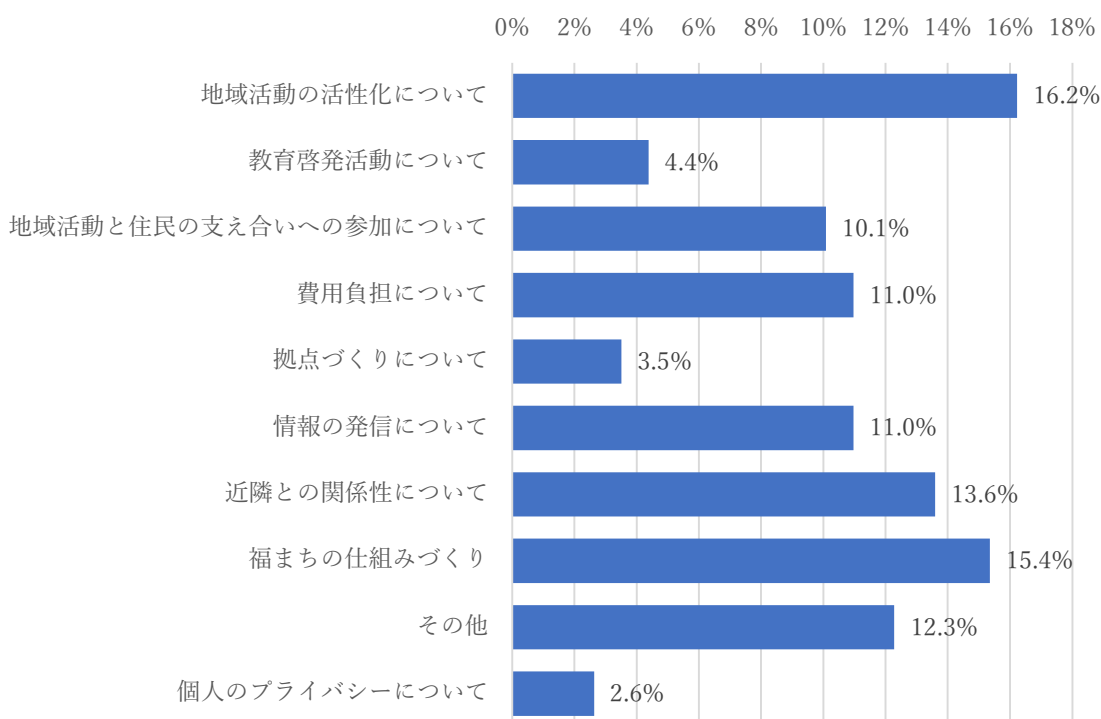
回答数（228 件）

地域活動と住民の支え合いに関する意見を聞いたところ、228 件の回答があった。

記載内容から下図の 10 項目に分類し整理した。

最も多い意見は「地域活動の活性化について」で 16.2% となっている。次いで「福まちの仕組みづくり」が 15.4% となった。

代表的な意見を次項以降に抜粋し掲載する。



地域活動の活性化について

自分は参加していないが、町内会の方々が道路に花を植えて下さって、町が明るくキレイになっているのは北海道の魅力であると、他県から来た私は思っています。きっと老人や主婦の方や子供達で地域活動が活発な町は美しい花がたくさん咲いている。<女性・50代>

少子高齢化社会が進行する中で住民が抜本的に減っていき、経済は発展しないのが当たり前の社会。人口の大幅減少の中で安定した社会が求められると思います。地域活動、住民の支え合いも、住民の大巾な2/3以下への減少と地域経済の縮小安定の中で、公財を基本に共助自助との有機的な組み合わせが求められていくと考えます。行政が今から税金予算を使って「ボランティア、NPO法人を育成いくこと」が求められると思います。住民数の減少、経済規模の縮小が進む中では地方自治体、行政の財政、予算も減少、削減せざるを得ず。インフラ整備も維持修理もむずかしくなっていく中、「地域・支え合い活動」などには「ボランティア、NPO法人等、志しのある組織団体の育成、成長なくしては存続できない」と考えるからです。

細かいことかもしれませんが「町内会総会など会議集まり」で高齢(?)な役員に町内会費でお酒をのませるのは、やめないとダメだと思う。<男性・60代後半>

昔仕事で資格を取ってそのままの人達が沢山いると思う。経験を活かすと老人は生活にはりが出来て健康につながっていくと思う。今までコロナで家の生活が多かった部分の活動が低下していると思うのです。<女性・60代後半>

民生委員の方が努力や、近所の方々の助けて、事がうまくゆけば良いが、今後は難しくなってゆくと思う。

自助、共助、公助から漏れ、絆も掛からない層をどうしてゆくのかが、最後残って来ると思う。(すでにそうなのかも知れませんが)

札幌でこの状況ならば、他の自治体はもっと深刻なのでしょうか。協力して知恵を絞ること、頭で考えすぎず実行に移してゆくことが必要な時期をアンケートを通じて感じました。<男性・60代前半>

教育啓発活動について

「支え合う」為には互いに歩み寄り、理解しなければなりません。

しかし近年技術や社会通年が目まぐるしく変化していく中で取り残される人やあきらめて足をひっぱる人、そもそも変化そのものに気がついていない人等の様々な人がおり住民の支え合いどころか、各々の価値観がわからずに「何を支えれば良いのか」、「なぜ支える必要があるのか」、「どのようにそれらの情報を知れば良いのか」といった基本すらおぼつかないのが現状だと思います。(個人の感想です。)

そして某県のような「ゲームは1日1時間」や「食品に放射線滅菌を行なってはならない」等の科学的、統計的に優位性の無いルールや「戸定梨香問題」や「ゆっくり茶番劇問題」等の本来問題にならなかつたり問題になる様な状態になってはならない物を「問題化した」という事により活動に変な制限がかかってしまっていると考えます。

よって法や条例の見直しや(老若男女問わず)教育の機会を作り知識や価値観を合わせていく体制を作り社会や技術に取り残される人を減らしたり取り残されている人を今の価値観に合わせて行けるようにする必要があります。

<男性・20代>

海外居住中ボランティアにおわれる毎日でした。町内(個人情報内) イベントパーティ、PTA サブ teacher 地域にとけこむ為、自らを知ってもらい友達を作る為。結局まわり回って私自身が助けを求めた時、たくさんの気持ちが集まりました。ボランティアは自己満足の為ではありません。当然の事人として自然な事、それなのに帰国してからは、スッキリふみ込めません。近所でもあちらとこちらは仲良く、AとBはけん悪、CとDは無関心。色々で疲れます。私は私ですので、自分のペースで暮すことが大事。他に迷惑をかけずにやれるだけやっていきたい。そう思います。ただ若い人は多忙

で疲れている様ですが、その中でも利己的にはならず「ボランティア」ってすごいんだと、ステキなんだとわかってもらいたい。<女性・60代後半>

地域活動ボランティアは大切なことと思います。近所に長年町内会の役員をしている人がいます。その方はずうずうしい性格の人で、もしお世話になるかもしれないと思うと、とても不安になります。地域活動、ボランティアにかかわる人たちの教育の場があったらよいと思います。<女性・60代後半>

地域活動と住民の支え合いへの参加について

札幌市内でも地域差や置かれている状況で変わってくるが、自分自身の事だけを考えると何かきっかけがあれば地域活動に参加する事は可能だと思う。

互いを支え合う事は温かい事だと思うので優しいあったかい世の中になるといいですね。<女性・30代>

今後人口減少と高齢社会が進んでいく中でますます地域密着の活動が重要になるのは当然だと思います。その為に今までにない地域作りが必要だと思います。町内会などの組織、民間、地域住民の連携活動の見直しが急務だと思います。私もその活動の一部に加われば参加したいと思っています。<男性・60代前半>

人づきあいは苦手ですが、誰かの役にたつことができればやってみたい。週末、一人で散歩しながら、ゴミ拾いをしています。秋になると落葉で、とても一人では片づけられません。誰か一緒にやってくれたら、もっと広範囲をキレイにできるのと思っています。また、独居の人が、老後も安心して一人で生活できるしくみがあればいいと思います。住宅問題、お金の管理（家族信託も成年後見人制度もつかえない人のため）地域活動でできないかもしれませんが。<女性・50代>

生活にゆとりのある人は他人にも目を向ける事ができるのかもしれないが、毎日を必死に生きている者にとってはそれどころではない。生活保護を受けて楽な生活をしている人も何人も知っているが、体調不良でも仕事を休むこともできず病院に行く事もできない者もいる事を知って頂きたい。地域活動を活発にするのは良い事だとは思いますが、参加しないことで私を含め逆に孤立する者が出てくるのではないかと不安になる。<女性・50代>

本音を言うと健康なうちは誰かと関わるのは最低限にしたいものです。しかし老いと共に助けてもらう日が来ると思っています。日々忙しいので、目の前で困っている方がいたらすぐ助ける行動はしたいと思います。（意見ではなくすみません）<女性・50代>

費用負担について

- ・このアンケートはあったことに感謝いたします。
- ・支え合いはたいせつな問題ですね。
- ・ひろげるには、われわれのこころの問題。
- ・支えるとき、支えられるときの心の障害をとりのぞくこと。
- ・こころのバリアフリーをつくりだすことが大切かなと思います。
- ・あと経済の問題。ボランティア＝無償というイメージがある感じがしますが、英語でボランティアは「志願する」「志願兵」の意味もあるとききました。企業や有志からお金を募ってそれを基金にして労働提供に対する少しの対価を渡せるというような仕組みが大切になるかと思っています。（もうされているかもしれませんが）→ ボランティアをしたらクーポンやチケットがもらえる。サビカのポイントがつくなど。

ありがとうございました。<男性・60代前半>

地区センターやまちづくりセンター等での町内会活動を PR や貼り出し皆が集える場所作りをしたら良いと思う。月に 1 回から会費（お茶、茶菓子等付き）100 円程度費用を出してもらい近所付き合いや顔見知りを作る事から住民の支え合いがしやすいと思う。<女性・60 代後半>

家族や世帯に対しての給付金や支援が少なすぎる。

ボランティア精神は大切だとは思いますが、現代では家族にプラスなことがない限り参加できないと思う。

コロナでお金がない世帯が多いと思うので、まずはそこからだと思う。<男性・10 代>

PTA 役員を 5 年やりました。労力のわりに全く報酬なし、少し位にクオカード等あってもよい。とある老人施設でボランティアやっていました。職員さんも迷惑だったと思います。社協で手話、認知症サポーター講座受けました。受けてもその後サポートやつながる方向への助言は一切ない。ムダになった。<女性・50 代>

コロナが落ち着くまでは全体的な活動は難しいと思われる。人に会わずに出来るオンラインでご老人同士で会話や若者 1 人で 5 人の老人と会話やポイントをもらえると言う楽しみもあると良いと思う。 子や若者が少ない上に、精神障害、発達障害の方々も増加傾向にあるが、この様な方はまだまだ社会に足を入れるという事を許されていないが、本来はもっと光を生み出す活躍する場を（ランクアップをもっともっと）与えてあげるべき、さらに健常者と同じく賃金を与えてあげて欲しい。<女性・40 代>

拠点づくりについて

地域活動の拠点や集合場所が住宅街から離れた所に位置する会館や施設であることがほとんどで、気軽に行ける距離ではないことが多いため、住宅街付近に設置してほしい。

また活動（単発の）は休日に設定されていることが多く、仕事の休日が不規則の者にとっては参加しにくい。

参加される方は年配の方が多いが、コロナ対策が不十分なのかマスクをせずに話している姿を NHK の地域広報ニュースでよくみる。医療従事者である私にとっては、仕事に影響が出てしまうため、そのような対策不十分な活動には参加できないなと思ってしまう。

市役所や福祉センターなどの事業が担う負担が大きく、手が回っていないのが現状なのではないかと思う。

札幌に住む前は伊達市に住んでいたことがあったが、田舎で人工が少ないのもあると思うが、町内会で各班ごとに回覧板を毎月回していた。そうすることで嫌でも広報や地域のことを知ることになり、安否確認にもなっていた。札幌では回覧板を回している所はほとんどなく広報もポストに入れたら終わり。そのため、福祉センター側が安否確認をするという業務が増えているのではないかと思う。

あとは、介護認定制度を知らない高齢者が多く、市役所の判定も厳しくなっている。

ADL 的に介護講座があってもいいレベルなのに老老介護で生活している人が多い（入院患者も）ため、多くの高齢者が介護認定調査を受け、ヘルパーや福祉用具の利用、デイや訪看を利用していけば、地域での活動内容より限定的になり、活動しやすくなると共に地域の人も活動内容が理解しやすくなり、参加者が増えるのではないかと思う。

<女性・30 代>

子供の頃はもっと田舎に住んでいたのも、地域の方々とのつながりを感じて生活していました。近所の人が今のような状況かもわかりました。今は子供もおらず、なかなか周りの人と関わる事もなくなりました。私が良くて相手も嫌だと感じるのでは？と考えると行動にも移しづらいです。お互いにサインが出しやすい場があると良いなと思います。

<女性・30 代>

地区の集会所などに「生活支援アドバイザー」が常駐していると困ったことなど、相談しやすいと思います。<女性・70 代後半>

情報の発信について

活動内容とかを SNS とかで発信をすれば、若い人も興味を持つかも。（インスタのストーリーとか）

紙は見ないです。（回覧板とか新聞とか）<性別年齢不明>

アンケートのご送付、ありがとうございます。

恥ずかしながら、札幌市の「福まち」活動の事を存じ上げませんでした。

我が家には母（40代）、妹（20代）がおりますが誰も分からないようで、もし今後機会があれば参加（地域活動等）したいねと話すきっかけとなりました。

もちろん知ろうとしなければ気付かないことですが、より身近なものになるとすれば、やはりインターネットからの流入で情報を仕入れることがほとんどです。

素人意見で大変恐縮ですが、私達世代の目にも触れるような行動経済学的広報等が拡充すれば、知る人も増えるのかなと思いました。私自身も機会があれば今後お手伝いできればと思います。<女性・20代>

高齢の母が1人暮らしをしており、福祉除雪をお願いしています。父が亡くなったことがきっかけで依頼することになりましたが、存命中は高齢者が受けられる福祉制度について何も案内がなかったです。

福祉除雪などの制度も町内会長より教えてもらいました。情報について、一定年齢以上の高齢者や配慮が必要な人にまんべんなく届くような仕組みを作ってください。

郵便局や銀行など定期的に行く公的機関でも案内があると助かります。<男性・40代>

市営に住んでいますが、主に個人情報の関係で住民の傾向、情報が全く判りません。コロナの関係でもあると思いますが、救急車が来ても、同じ市営に住む者としてどなたがどうされたのか、死亡通知等も無くなっていますので、両隣の方との関係しか判りません。それはともかくとして、高齢者にも若者にも判りやすい情報、絶えず通知して頂き、どんな人でもかるく参加できる組織を作ってもらえればと思います。関心はあるけど一歩進めない思いがします。<女性・50代>

近隣との関係性について

共働きが当り前の時代になり、朝出て、夜迄帰らないお宅も多いです。

子供が同学年だとか、同じ地域の住宅街に同じ時期に住み始めれば交流もあるが、元々ある住宅街にボツンと後から住み始めても、お向かいのお宅とかしか、顔を知らない。学校へ行く子供に「おはよう！」と声をかけても、今の時代知らない人には挨拶をしないと言われているのか、知らん顔、、、。むなしい世の中だなと思います。<女性・60代前半>

マンション住まいをしていると、あいさつ程度しか関わりがありません。あいさつのない中高年も増えてきています。関わりがうすくなり将来的に町内会への関心も心配されています。改めて町内会の活動、近所づきあいのあり方を考える必要性があると感じます。<女性・40代>

困った事、不安な事、一人で生活している人はどこに相談したら良いのか分からない状況です。広報町内会での連絡をしていた所で、お金がかかるのではとか、恥ずかしい生活を見てほしくないとか、人それぞれの悩み、やはり身近な町内から始まり、特定の専門（ヘルパー）等が働きかけていくべきです。

月に一回でもアンケートを配り、困り事、悩み等（各家庭）それに応じて訪問して話をうかがう内容によっては専門部署を紹介していく、細かい気配りが必要と感じます。<女性・60代後半>

人とかかわりが希薄になっている。気持ちはあっても、忙しかったりわずらわしさもあり又コロナ禍で様々な集まりも少なくなり、人と触れあうことに躊躇することが増えている。とても難しいです。町内会の当番さえしない人が多い。

<女性・60代後半>

家のまわりは高齢者や内向的な人が多いので近所づきあいが無い。コロナ感染の心配もあるので積極的に交流しようとは思わないです。 <男性・50代>

近所との関わりが希薄になってしまった以上難しい。昔のみんなで子供達を育てている様な関係性はそれはそれで良かった。でも今の時代に合っていないかたちだというのも分かりきっているところ。隣近所とのコミュニケーションを取る方法を考えて一つ一つ進むしかない。<女性・30代>

福まちの仕組みづくり

70 歳になりもう少しで仕事をやめます。まだ自立した生活ができていますので、支える側になれますし、社会とつながらなくなった時点で支えられる側にもなります。その両方がうまく機能するような場や仕組みがあればよいと思います。<女性・60代後半>

地域の役に立ちたいと思っても、ご近所さんが困っていることがわからないのが現状。
電話の交換や家周りの簡単なことなど、まだ体力のある今ならお手伝いできるので、お役に立てたらと思います。その両方が組み合わせられる様な仕組み等があればいいなと思います。<男性・40代>

昔と違って、我が子達とも同居せずバラバラな生活の中、だんだん高齢に成るにつれ、身体が思うように動かず、誰かの介護や手助けが必要な事があるかと思っています。そんな時急を要する場合は地域における介護、手助けが重要に成るかと思っています。安心して暮らせる「地域福祉社会計画」は重要な役割かと思われまます。なるべく他人の迷惑にならないよう、毎日身体を動かしウォーキングに励んでいる毎日です。<女性・75歳以上>

助けを必要としていても、誰に何を言ったら助けてもらえるのか、分からない人がいるかもしれないと思いました。
突然、子供をあずけたくても、費用やあずける場がない人とかありそうだと思います。
双子の赤ちゃんの親の買物（1人で）は、手助けがあったら助かるのではと想像しました。
ボランティアに預けづらいので、民間の会社で対応できる仕組み作りをするなど、気がねなく使えるシステムだと頼りやすいのではと思いました。福祉活動と違う内容でしたら、申し訳ないです。<女性・40代>

（リーダの存在、地域住民の管理）→情報収集→企画→運営実践
官と住民だけではだめ。民間事業者の活動が必須。なぜなら民間事業者はすでに組織とノウハウをもっており機動があるし会社員は地域住民でもあるため市民住民の意識の向上に直結してくると思う。<女性・50代>

その他

自分自身がまだ健康で、他の方の力を借りずに生活しているので、今は必要を感じていませんが、高齢になりどなたかに頼りたい時がきたら不安です。<女性・60代後半>

・今のところ精神的に不安定のためか主人が入院（9年前）当りから睡眠がよく取れず病院より睡眠剤を頂いていますが安定がなかなか取れず悩んでおります。そのため病院（心筋梗塞、整形、眼科、内科（五か所）通いに行くのが賢明です。
・買い物は自分でやりたいので頑張っております。
なるだけご迷惑かからない様に致しますありがとうございました。<女性・75歳以上>

個人のプライバシーについて

地域活動はとても難しいと思います。プライバシーの問題が大きく「どこまで他人の家庭に踏みこむか」です。それに「人の口に戸はたてられない」ので関った人がどういう人であるかも問題です。私の近所では世話好きで人のいいお婆さんがいますが、別名「放送局」のように知られたくないことも拡散されてしまうといったこともありました。私も今は夫と二人暮らしで健康上も大して問題はないので、近所の方の助けは必要としていませんが、もう少し歳を取って必要となれば

近所よりも公的な機関を頼むと思います。少ない年金の中で一度も使ったこともない介護保険料を多額に引き落とされているのですから。＜女性・60代後半＞

今は、個人主義になりつつあると感じます。特に若い世代。教育の現場で、社会人として地域活動や人の支え合い・助け合いの大切さを伝えていくべきだと思います。もっと普通に住民活動等に参加できる環境があると住みやすい街になると思います。＜男性・60代前半＞

個人主義、家族主体の中、ボランティアを募るのは難しいと思います。人を集める為には、集まって楽しいなどのメリットも重要だと思います。＜男性・50代＞
